

婦人少年者

昭和二十八年五月三十日第三種郵便物認可 昭和二十四年三月五日発行 毎月一回五日発行 第七卷 第六十二号

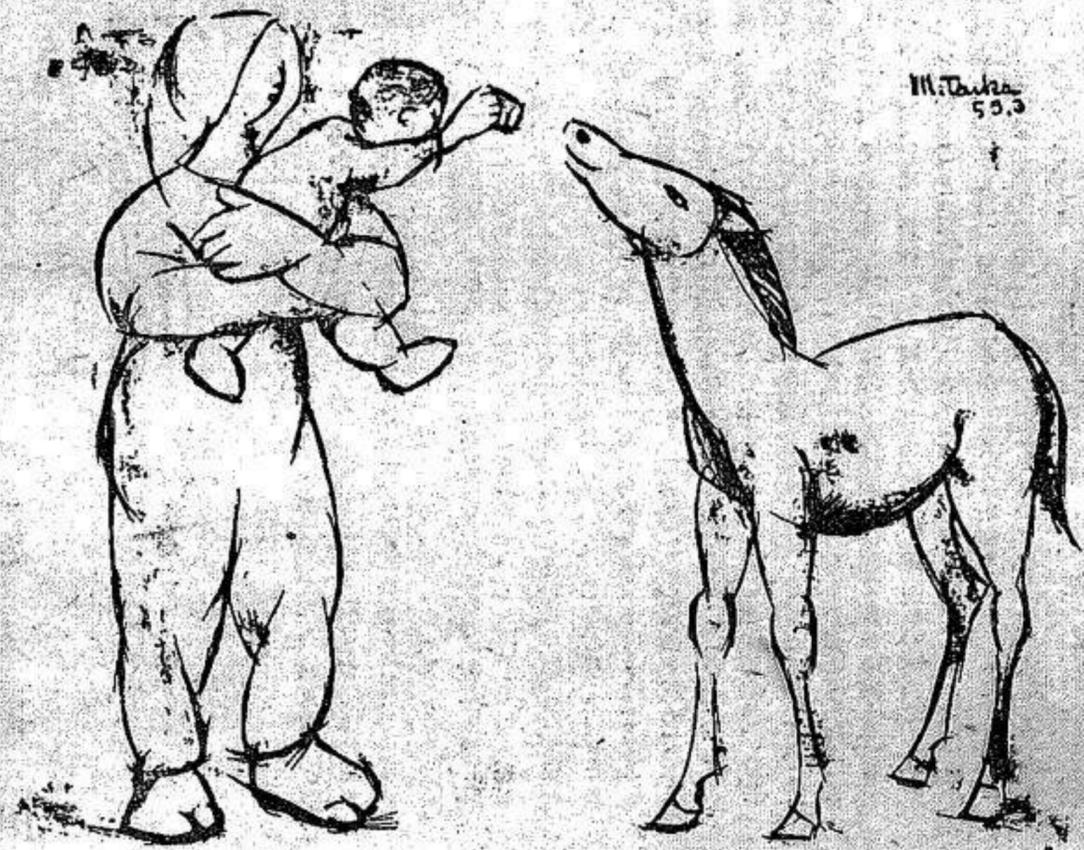


◆第11回婦人週間準備号

3

1959

婦人少年協会



個人の自由と責任が 集団をそだてる

- よい家庭を...
- よい職場を...
- よい団体を...
- よい近隣を...



第11回
婦人週間

4月10日→16日

労働省
婦人少年局★スター No. 30

婦人と年少者 七巻三号 目次

◆第十一回婦人週間準備特集号

婦人週間とは……谷野 せつ子
集団と個人……関 嘉彦

座談会

集団における個人の自由と責任について
伊藤 直見、福武 直見、石橋 宮子、(司会)高橋 展子

第十一回婦人週間のしおり
全国婦人会議出席者の近況

私の職業⑩
本間 健子、清水 寿恵子、長江 寿恵子

「衛生管理者」
岡山県 婦人労働風土記⑧
秀鳥 羽組子、パンロック帽を織る婦人たち

婦人と選挙
中山 喜代子、中山 義治、女子学卒者の職種別就職状況、石原 義治、婦人界の動き

△協賛員のひらば▽
雲田 謙吉、長久就 芳児、長久就 K子、すくすく育つ杉の子会、長久就 芳児 K子さんを訪ねて

◆第十一回婦人週間ポスター
表紙の9
◆婦人週間に於いての御意見ありがとう
表紙の9
◆女子の就業者数と完全失業者数・平均現金給与額
表紙の9
◆婦人少年局ニュース
表紙の9
表紙……富山 妙子、塚谷 政哉



婦人週間とは

労働省婦人少年局長
谷野 せつ

今年も四月には、婦人週間を迎えようとしております。婦人週間と申しますと、何かしら婦人たちのお祭りの週間であるかのように思われがちですが、これは日本の婦人がはじめて国会議員の選挙をしたその日を記念して、四月十日からの一週間を、婦人の地位をたかめるための週間として、婦人の問題を皆で考え合い、婦人の地位を實質的にたかめてゆこうとするところから始まった運動でございます。

今年も第十一回目の婦人週間を迎えるわけでございますが、この運動が始まって以来、年々、皆さまの御理解を深めて、このころでは皆さまが、いろいろな行事なども、全く自主的にお持ちになるようになってまいりました。また皆様それぞれのお立場から、自由にこの運動を進めて下さるようになりまして、本当によろこばしいことでございます。

婦人週間はこうした意味をもって生まれたものでございまして、労働省といたしましては、折角のこの週間の意味をはっきりさせるため、皆さまと御相談をしながら、この運動の目標のようなものをとりあげてまいりました。それで今年も、昨年の婦人週間の目標であった協同活動の裏づけをいたします意味でも、婦人の自主性を、集団との関係でもりあげたらということになりました。集団の中の個人の自由と責任とは一体どんな意味を持つものであるかを考えながら、さらにまた、婦人たちがさまざまな集団の中で「個」の独立をはかりながら、同時に自由と責任を満たして、その集団を発展させてゆくには、どうしたらよいか、

等の問題について考え合うことになったのでございまして。また、この婦人週間には、記念行事の一つとして、例年労働省と日本放送協会とが主催して、全国婦人会議を持ってまいりましたが、今年も四月十二日から十五日まで、その第七回目の会議を持つことになりました。この全国婦人会議には、例年、北は北海道、南は鹿児島から、この婦人週間のテーマについて応募され、選に入られた方々が、さまざまな御意見や、貴重な体験などを話しあわれて、その後、お国にお帰りになってからも、その地域に大切な存在になって、よい働きをすすめていらっしゃる方が多いのでございまして、この全国婦人の地位をたかめるために果たす役割は、本当に大きいと思うのでございまして。

それで、本年の婦人会議には、例年の部会や総会のほかに、工場や社会施設の視察や移動会議なども含めまして、いっそうその内容を充実させ、皆さんに喜んでいただくと同時に、また、この会議が今後の婦人の地位をたかめるためにも、いっそうお役に立つものでありたいと考えております。

そこで、再び今年の婦人週間の目標のこととさせていただきますが、集団と個人の関係と申しますと、何か私たちの生活に縁遠い理論めいたことのようにお思いになるかもしれませんが、実は、私たちの日々の生活に全く身近な大切な意味を持つ問題でございます。たとえば極く身近な例をひるってみましても、人間は生まれ落ちるとすぐ、家族という集団の

一員として生活をはじめますし、また結婚によっても、新しい家庭という集団の生活に入ることになります。けれども私たちの家庭をとりまく社会や家庭そのものの生活の中には、まだ、いろいろと古いきまりや考え方が残っていて、家族のめいめいが個の立場を尊びながら、家族のむすびつきをふかめてゆくということは、本当にむずかしいこととございます。また、世の親御さんたちは、誰しも子供たちを本当に自主性のある人間に育てたいと願っていることとございまして。けれども子供たちが自主性を持って、将来の複雑な集団生活に適応し、その発展に役立つものとなるためには、子供のころからの家庭のしつけの中にもかなりな役割があるのではないかと存じます。また、家庭の主婦の座は、家族全体の幸福をあげる大切な役割を果たすものでございまして、主婦の働きが家族の幸福に役立つためには、主婦も自分の時間を持って、よい休養を得、社会活動にも参加することが、大切なこととございまして。

ところが、今日の複雑な家庭生活の中では、主婦がそのようなことをみだしてゆくということは、本当に大変なこととございます。一方、繊維工場などの寄宿舎生活を営んでいるようなところでも、集団の生活の中で、本当の意味の自由や責任ということがわかっていないために、せっかく与えられている寄宿舎生活の自治の原則でさえ、その運営がうまくゆかないといった問題、さらにまた、労働組合や婦人団体に参加しているような場合でも、組織の中の婦人たちの自主性が弱いため、声の大きいものにひきずられて右往左往してしまったり、或るいはその団体の一員として、当然に果たさなければならぬ責任や義務が忘れられていするため、組織の力を弱めることになったり、その集団の手足まといになつて、その組織のよい成長に障害になっていっているという批判をうかがうことも少なくないのでございます。こうして集団の中で、個人の自主性をたかめてゆくということは、民主主義の発展に、根底をなす大切な要素となるものでございますが、このことはまた、地域社会にあって、私たちが市民の一人としての生活を営みます場合にも、隣人に果たす役割や責任についての自覚となって、町や村をよくするために、婦人がおしむ

なく力を貸すことにもなるものではないかと存じます。私はこの婦人週間が、皆さまの週間として、ほんとうに皆さまに役立つ週間でありまうように、さらにまた、皆さまによつてこの週間が自由に生かされるものでありますように、お願いいたしてございまして。

(本稿は二月三十一日NHKから放送されたものです)

第十一回婦人週間についてのアンケートに御協力ありがとうございました

- 婦人少年局では、毎年、婦人週間の準備をすすめるにあたって、広く各方面の意見を参考にしています。今年も第十一回婦人週間の構想をまとめるに先だつて、例年どおり、中央及び地方婦人少年室を通じて、全国の婦人団体、労働婦人部はじめ各種団体、政党婦人部、有識者等の御意見をまよりました。
 - 今年には特にこのほか、新しい試みとして、全国の婦人有権者中より無作為に抽出した二〇〇〇名並びに過去六回の全国婦人会議(婦人週間行事)出席者三六〇〇名にアンケートを出して、婦人週間の目標、行事等に對する御意見を伺いました。
 - 各方面から寄せられた主な目標は次のとおりです。
- 婦人の自主性の確立
 - 婦人の教養の向上
 - 婦人の権利の再認識
 - 婦人の実力の涵養
 - 明るい人間関係の確立
 - 家庭の民主化
 - 団体と個人の関係
 - 協同活動の促進
 - 婦人会の自主性の確立
 - 男女同権の確立
 - 政治意識の高揚
 - 市民意識の向上
 - 明るい社会の建設
 - 国際理解の促進
 - 以上のほか具体的な問題として嫁姑の問題、亮春問題、母子家庭の問題、老後の問題などがありました。
- (婦人少年局婦人課)



集団と個人

岡 嘉彦

最近日本でも、集団または組織と個人との関係について多くの発言がジャーナリズムを賑わしているが、この問題は、古来哲学者を始め多くの人がそのあるべき関係について解答を与えようと努力してきた問題である。人というのは、日本語の人間という字が示しているように人と人との間、すなわち共同生活において、始めて人間となりうるものであるが、単なる悪人同士や師弟といった個人対個人の関係ではなく、成員同士の間に対面的な関係以上に目的を共通にしているという意識によって結ばれた多数者の関係——村落・職場・学校・組合・国家といった結合——すなわち集団に対する個人の関係こそは、共同生活の重要な部分をなしているからである。にも拘らず、この問題に関して次々に多くの思想家が発言してきたということでは、万人を納得させるような解答がまだ出されていないことの証明である。

一体この問題について万人を納得せしめるよ

うな解答を書きうるものであろうか。私は抽象的答以外に解答を与えないのが当然であると思う。というのは、社会と個人との間に解答が出され、何ら問題がなくなつた世界は、神の世界か動物の世界である。己の欲するところが自ら他の欲するところに合致する場合は神の、己の欲するところ以外に他の欲するところを認めない場合は動物の、世界である。しかし、人間が自己をもっていると共に共同生活を遂げて始めて真の人間になりうるものである限り、この問題は人間が永久にその解決を求めて行かねばならない宿命であるとも云える。

私は勿論ここでその解答を与えようとするものではない。ただ、すべての人がその解決に努力する場面に考えねばならぬことについて、私が平素考えていることを述べるに過ぎない。

最近この問題が新しく日本で取り上げられてきたについては、いろいろの原因があると思われるが、その重要な原因の一つは、戦前に、前近代的な共同体に埋没させられていた人々が、戦後の解放によって自己を意識し始め、自己の権利を主張するために自発的集団——例えば労働組合や婦人団体——を結成し、或るいは婦人が家庭から解放されて社会的活動をするようになり、家庭以外に新しい集団として職場をもつようになったが、その過程が急激であったため、その間の調整が充分なされなかつたことにあると思う。これは、日本に限らず欧米でも論じられている組織化の問題、すなわち自由な都市生活をしている人がその自由に堪えきれず「所屬性」の中に安心を求めんとする場合、生活様式、思考様式が組織化、規格化され、個人の自由を脅かすつづつあるとの問題に関係するところでもある。

人間が一人で生活し得ない以上、何らかの集団に所屬しようとするのは人間の本能であるが倫理的にも人間は他人との交わりを通じてのみ完成しうる。かつて啓蒙期の合理主義者は、個人はそれ自体として完成しうると思つたから、

人間は単に生理的または経済的不便を除去するためにのみ社会生活を営むものであり、科学的知識の普及により人間は、自らにして完成しうると思つた。しかしこのように人間を自足的なものと思つたことは、社会生活の本質的意義を見失うものであろう。他方においてその反動として現われた集団主義または社会有機体的な考えは、個人と社会の関係を、生物有機体における手足などの部分と生命体全体との関係に等しいものとし、個人は社会の部分として全体に融身することにより始めて個としての存在理由があるものと思つた。これらの論者は、社会それ自身が生命と意志をもつものであると思つた点で他方の極端に走つた。この二つの考えは、部分社会としての集団、特に組織集団と個人との関係についても、あてはまるであらう。

あがると、それ自身の存在理由を主張して、成員の自発的意志を感服しがちであるし、他の集団との関係においても、集団自身のエゴイズムを發揮しやすい。集団を支配する多数意見は固定化し、それと異なる意見を異端として抑圧しがちであることが日本ではそれ程注意をひかない。特に全体社会の構造が保守的な日本では、改革は集団の力の結集によつて行われなければならないため、集団自身が強い統制をふるう傾向があるに拘らず、そのような集団自身のもつ危険性が、危険性として自覚され難い。集団または組織集団は悪をなさずといった先入主をもっている人もある。

在するのでなしに、その全成員によつて共有されているという意味において共通に存立する意志である。従つてそれを共有している人々は、その集団の目的実現への共同の参与という点でのみ意見の一致があるに過ぎず、その集団の目的以外のことについては当然に異つた様々の意見の持主であるのみならず、その経験を異にする以上、その集団の目的実現についても、具体的問題については、当然に異つた意見の持主であると思つねばならぬ。換言すれば、集団は共通の意志の存立を前提とするが、その共通の意志は単数形の意志でなく、複数形の意志であり、その合成果として形成されるのである。同一性は、その目的実現という方向においてあるのみで、その内容においては異なるものであることを認める必要がある。その場合に始めて、一と多、全体と個との対立が意識されてくる。

日本では、西欧的意味の市民社会が不完全にしか発達しなかつたため、とかく集団の方にウェイトをおく考えが支配的であつたし、今日でもそうである。集団といつても、個人の自発的意志で形成されるクラブとか相互扶助団体などは、本来民主的なものであるが、日本の場合には、村落の秩序や軍隊の秩序がそのような自発的集団までも支配しがちなものである。地域的隣組がボスの支配に委ねられているし、本来最も民主的な労働組合も、日本の場合、戦時中の産業報国会がそのまま転形したのが少なくない。このような処では、ともすれば、集団は個人の全面的忠誠を要求しがちである。しかも集団は、本来自発的に作られたものであつても、一度でき

このような考えの底には、その集団の支配的意見である統一意志は単一の正しい意志であり、それと異なる個人の意志は誤つた意志、偏向した意志という考えがある。そのような場合、個人は、その正しいとされた集団の意志に無条件服従を要求され、個人は集団の中に解消してしまふ。

第二に重要なことは、人間の意識的行動は常に道徳的意味をもつものであり、その行為について道徳的責任が生ずるが、その道徳的行動の主体は常に個人のみであるということである。組合や会社はしばしば法律上の行為を行うとき法人格をもつものとされるが、それは法律上の擬制であつて、道徳の世界で責任を負うのは集団を形成する個人または複数の個人である。責任は過誤を認め、それを悔やむ人に対してのみ追求することが意義があるからである。しかも道徳的主体が個人であることは自由の権利を認められるのも個人のみであることを意味する。自由とは道徳的に正しいことをする可能性であ

るが、そのような道徳的自由が存在しうるためには、普通に市民的自由といわれるもの、身体上の自由、言論の自由、司法上の自由、団結の自由等が認められていなければならぬ。そのような市民的自由を行使するのも個人である。以上の二つのことから次の結論が生れる。おおよそ集団がある限り、集団と個人との対立は不可避であり、しかも集団生活と共に個人の自由が人間の道徳的完成に不可欠のものである限り、個人が道徳的に完成せんと努力すればする程、個人の自由と集団の統制との相剋は一層激しく意識される。集団の規律ないし統制なくして、集団生活はあり得ないが、それは個人の自由な意志で課せられた場合でも、個人の意志が本来多様で発展するものである限り、その間に対立が生ずるのは当然であるからである。

この場合そのような対立は集団の力を弱め、活動を阻止するものであるとの非難がなされるかも知れぬ。しかし果たしてそうであるか。そのような対立のない集団は、なる程迅速な行動をとれるし、短期的には確かに強力であるだろう。短期の特定のさまざまな目的のために構成される集団——例えば不意の失火に町の人々が一団となって消火に出るような集団——の場合には確かにその通りである。しかし長期の目的を実現する集団の場合はどうであろうか。その場合内部に對立のないことは、成員の意見が固定し、各人が人間として成長していないことを意味しはしないか。その場合、そのような固定した意見の持主からなる集団が発展しうるであらうか。人間の成長がある限り、集団の意志は絶えず変化して行かねばならぬ。一定の時に到達した一致は、次の時には不一致になるのが当然である。換言すれば、集団内部で意見の多様性があればある程、その集団の生命力がそれだけ大であることを示すことになる。

四

成員の意見の多様性がその集団の生命力をなすものであることが認められるならば、われわれの論すべき第一のことは、集団内において意見の対立があるのが当然であるし、また、あるべきであるということをお認することである。このことが意味することは、集団内において自由な意見の討論を促進しようとする心がけることである。そして結論としては、少数意見は多数意見に服従すべきであるが、重要なことは、結論ではなしに、その結論に至る過程である。その過程において、各人は自己の意見を主張すると共に異なる意見に謙遜し、耳を傾ける用意がなければならぬし、結論が出た後も少数者の批判を絶えず許していく寛容が必要である。勿論その意見は、集団の一般的目的に則したものでなければならぬ。しかし、自ずから頂上は共通であつても富士山に登る道は一つでないことを、各人が自覚することが必要である。

第二に重要なことは、個人はそれぞれ的人生の目的に応じた多様な集団に關係すると共に、集団生活以外の私生活(プライベート)の生活をもつことである。人生の目的は一つではない。労働条件向上のため労働組合に参加すると同

様に、音楽や俳句などのサークル活動、PTAの活動、娯楽などのクラブへの参加等、人は多様な集団に参加することによって、「一つの集団への忠誠を集中することより生ずる精神のアンバランスを避ける。しかしそれを劣らず重要なことは、個人が一日のうち十分でも二十分でも、自己とのみ對峙する孤独の生活をもちことである。各種の集団に關係する複数の自己を統制する自己を養うことが、集団の不当な圧迫と闘う力を与えるし、また集団への新たな寄与をなしうるであろう。外には「才能は孤独静寂の裡に養われ、人格は塵世波瀾の裡に熟す」といつているが、才能と人格が不可分なものである限り、人間は、孤独静寂と塵世波瀾の双方の間に成長するといふべきであらう。

最初に述べたように、集団または社会と個人との關係について、その対立を解決しうるような処方箋は、今まで誰も書き得なかつた。たし、また、かりにあってはそれは個人が集団がのいずれかを、ひいては双方を誤って殺すような過りの処方箋でしかないであらう。集団と個人の対立は、あらゆる人々が毎日の生活の實踐において絶えず解決の努力を繰返しつつ、しかも、最後まで終局的な解決に到達し得ない問題である。それはある意味では影を追うような仕事である。しかしそれは空しい仕事であらうか。それを空しいと考へて努力を放棄する瞬間に、人間は人間としての生長をあるのである。

東京師範大学教授

集団における個人の自由と責任について

出席者	伊藤 武	藤 宮	岸直子
評議者	伊藤 石	高橋 展	
東大助教授			
日本YWCA事務長			
(司会)			
労働省婦人課長			

どうしてこのテーマを選んだか

高橋 今度の婦人週間のテーマといたしまして、婦人の自主性という問題を、特に集団との關係において取りあげる、つまり、「集団における個人の自由と責任」というようなことを、私どもとしては選んだわけでございます。きょうは、このテーマの含むいろいろの問題につきまして、婦人週間のテーマというところとらわれず、ごく自由な立場から、またいろいろな角度から、ぜひ自由に御意見を伺わせていただけたら

最初、このテーマについて私どもが考へておることを、お話ししたいと思います。

十八年の第五回の婦人週間にも、婦人の自主性というテーマとして一度出しましたが、そのときは主として基本的な人権といふことが、市民権といふようなことを、主として個人の側から立てて打つて出したわけでございます。結婚は自由であるとか、言論は自由であるとか、そういうことを大いに強調したわけでございますが、今回は、それを少ししぼりまして、集団との關係においてとらえたいというわけでございます。しかし、自主性といふ、あるいは自由と責任といふにしても、もともとこれは社會關係の中においてだけあることですから、集団との關係なんというものは、馬から落ちて落馬するみたいだ、ともいわれましたが、まあ私どもといたしましては、今回はこれを意識的に扱ったわけでございます。昨年の婦人週間には、「正しい共同生活を育てよう」ということをテーマにいたしました。そのテーマに従って仕事を進めておるうちに、非常に大きな問題として集団と個人という問題にぶつちかてきた。もう一つは、集団というものが戦後急にたくさん作られるようになって、個人が集団に参加することも非常に多くなつてきている。それに伴つていろいろの現象が出てきているのではないかと、それが非常に面白いになって、個人の

ある面では、集団化に伴つて、人が無気力になるという面も指摘されましよう。また日本の場合は、元來、集団の中に個人が埋没してしまふということも大きな問題ではないか。そういうことかから、今年には自主性を集団との關係においてとらえたい。こんなことを進んで参つたわけでございます。しかし自由と責任と申しましても、共にそれは倫理的な責任と申しまして、社會によつてその内容も違ひますし、個人によつてその内容も違ひます。どんなふうに分けて、投げかけたらよいかといふことなどにつきまして、先生方のお知恵を拝借させていただきます。ありがとうございます。

伊藤 私、實際に婦人週間を、三年お手伝いさせてもらつていた角度から言いますと、三年前でしたか「日本の家庭を明るくするには」というテーマ、その次の年は「明るい人間關係を作る」ということ、そして去年が「共同活動」と、みんな考えようによつては、家庭と社會とかいふ集團の中での個人の活動、人間關係として一番中心に出てきていました。特に去年の共同活動では、小さなグループ活動、サークル活動をやっているときに、一つの目的を持つていて、団体ならば、比較的個人の自由とか責任とかいふものが明らかになるけれども、婦人会とか、青年団とかいふ、目的があまりはっきりしない団体の中にあると、それが非常に面白いになって、個人の

立場からいふと、勝手なことをしてもいいんだ、というところから出てきて、今度はリーダーの問題が非常に大きくなつてきて、どこまでリーダーに任せなければならないのか、これは各グループのときでも問題になりました。結局これは、問題として提起されたわけでは、一歩も出なかつたと思つて、従つて今年このテーマは、そういう婦人週間の歩みから言つても必然的に出てきた。それがたまたま、これは高橋先生の御専門ですけども一般社會で言われている大衆社會といつたもの、近代社會における個人の意識といふことにつながつてくるのじゃないかと考へるのですが、その場合、日本人の自我の発見という問題ですね、個人といふもので、ヨーロッパとは非常に違つたあたり方で進んできたように思ふんです。そんな問題はどんなんですか。

高橋 Yでも四月に毎年催しものがありまして、これは世界YWCAからテーマが流れてきて、各国のYが参加してキヤンペーンをなさる。YとYとYの発想形式が毎年似てしまつて、タイピシタまで同じになるとか何度もいひましても、Yの世界本部に双見でもいふのじゃないかと思つて、今度も全く同じになりまして、個人の自由と責任ですか。

石橋 「個人の」と限らないんで



伊藤氏 高橋氏

す。Boundaries(拘束か自由か)というんです。毎年婦人少年局と同じようですね。結局世界的に考えても、女の人をどう考えるか、そういうことが問題になってくるんじゃないですか、日本ばかりでなくて。

伊藤 もっと大きく言えば、女の人の問題じゃなくて、政治体制として、この問題が一番現代の問題なんじゃないかね。いわゆる全体主義と、自由主義との問題は、自由と責任との問題、集団と個人との問題なんですかね。

高橋 Yの場合には、結局、キリスト教という大きな柱があるわけですね。そこでもまた自由と責任ということが、今お

話し合っているようなことと、多少違う意味が加わってくるわけですか。

石橋 違うというところじゃなく、キリスト教の立場を基盤としてすべてを考えたいというわけですね。ですからたとえば自由と責任というところでも、私たちの内面から出てくるほんとうの自分というものの確立がなければ自由がないということですね。キリスト教の立場からいえば、そういうところを非常に強調するわけですね。

去年の夏、世界YWCAが主催して、ギリシャのアテネに方々の国から五百人の若い人が集まって会議をしたんです。三十五歳以下という年齢の規定があって、そこではいろいろなワークショップに分かれて協議をしたんですけど、そのうちの二つに、やっぱり「自由と責任」というのをテーマにしたグループがあって、最後に非常に簡単に、自分たちの結論を出しているんですね。日本人みたくにこねこね、こねないで実に端的で簡単なんですね。私たちは自由が欲しい、自由になる、だけれどその自由には、いつでも責任という裏付けが必要だ、そのことを絶対に忘れないでいこう。ただそれだけなんです。そんな簡単に結論が出てくるというところは、ある意味でうらやましいと思ふんです。日本の若い人だったら、そんなふうにはいけませんよ。

高橋 そういふふうに簡単に答が出てくるというのは、何か非常にきびしい体験からなのか、それとも心きで……

石橋 ある意味で、のんきとも言えるでしょうけれど、それでもその中には、ずいぶん深刻な問題を持っている國の人が多いんですよ。

集団と個人の関係を大きく分ける

高橋 まず集団というものをどういうふうにとらえるかというものが一つの問題ですが、今、ここでは大きく分けて、社会的な集団と個人を同じようなものとして考えて、出発したいと思ふんです。そういう場合に、今、伊藤さんがおっしゃったように、目的を持った集団、従って人間が一定の関心を充足させようというところで作る集団と、そうでなくて少し言い方が危険なんです、自然発生的な、運命的にそれに所属するという集団、その二つに分けられるんじゃないかと思ふんです。前者のほうは、サークルなどももちろんですし、一定の職場に入っていくという場合も、自分の意思で入ると思ふんです。それから、婦人会や青年団だって、先ほどおっしゃったようにサークルとは多少違った面もあるかもしれないですけど、本質から言うとやっぱり目的的な集団だと思ふんです。それに対して家庭、家族などは、結婚するということからみれば人間が意識的に作り上げるものになります。そこに生まれてくる子供にとっては運命的に産み込まれるわけですね。だから後者のような性格を持つわけですね。それから村とかいう地域

社会も、ある意味では自然発生的な要素を持っている。目的的な、ある一定の関心を充足するために作られた集団ではないと言っていると思ふんです。その場合に日本の目的的な機能的な集団というものが、地域社会的な集団、あるいは少しく言うならば協同体的な性格を持った集団に、非常に影響される。従って本来は一定の目的を持った集団でありながら、個人の自主性をくみ上げていくという性格を持たないで、自我の束縛というよりも、むしろ御座されたような形にいく、こういう面があるのではないかと思ふんです。

伊藤 もっと大きく言えば、女の人の問題じゃなくて、政治体制として、この問題が一番現代の問題なんじゃないかね。いわゆる全体主義と、自由主義との問題は、自由と責任との問題、集団と個人との問題なんですかね。

高橋 私どもこの週間のテーマから言いますと、集団という言葉で一言に言いましたけど、それは今おっしゃいました。家族集団、近隣集団、職場などすべての社会集団を一応想定しているわけなんです。そのどれにも共通の問題として、個人の自主性、イニシアチブというものが大事なのだ、それがあって各々の集団も育つのだということに立っているわけなんですけれど、大ざっぱに機能的な集団と地域協同体的なものとは分けて、個人のイニシアチブとか主体性とかいうことは、その二つの集団に共通した尺度ではかれるものなのかどうか、そのへんのことをもう少し伺いたいです。

私ども、きのうもこの中で会議したのですが、日本の女の人の場合と限定して、家族集団の中の生活というのには、まあ愛情というものが支えになり、いろいろの習慣も「正型」ができていて、その中でどう生きていくかということが私の意識からわかっていて、ところが新しい機能的な集団、これは多くの婦人にとって、そこにはいること自体が非常に新しい経験で、その中でどういかに処し



石橋氏 福武氏

ましいのは、言うまでもなく最後の型だろーと思うんです。そういうときに初めて人間の自由というものがあがり得るわけだし、そしてまた、そういう自由な行動があるときに、初めて責任というものがあがり得るわけじゃないか。第一の型の場合は、完全に人間は集団の慣行や基準のままに従っているわけですから、何か失敗したところで、自分が悪いわけじゃないということになると思ふんです。それから第二の場合には、自分のほんとうにしたいことがなかなかやれない、強制されてそれに従っているわけですからあやまちが生じたりしても、それは自分の責任じゃなくて、それをそうさせてい

るものの責任だということになるのじゃないかと思ふんです。三の型は日本の集団には極めて乏しくて、大抵一ないし二の型です。人間というものは、大抵そういう集団の中で生きておる場合には、みんながやるようにやっていると安心であるし、またそうせざるを得ないという状況に置かれていて、そうすれば、すべてを多数の責任に投げかければいいので、自分の責任はないわけですね。しかしその引き代えに、また自由はない、ということだと思ふんです。

それからまた、それを、リーダーと一般の会員という関係を見た場合には、リーダー——その場合には二の場合でも二の場合でも、メンバーによって、ほんとうに人間だという形で押し出されているわけではなく、その地域社会における身分的な性格からリーダーになる。下からの自主的な支えというものがなければ、そこから、従ってリーダーそのものも、それに従ってくるメンバーの自主性をくみ上げていくという意識も努力も乏しい。

従う側の者は、そのリーダーに献身的に従っていく。だからその場合にも、悪ければリーダーが悪いので、おれたちの責任ではないということになっていく。大ざっぱに言えば、そういうことが言えそうに思ふんですけれども、それで、どのような集団が動いていく場合にも、最小限の自覚性というものは

どうしても必要なんじゃないでしょうか。まったく個人が埋没している場合は、のいくらかの自覚、人間的な欲求の程度の自覚めというものは、あるわけですから、多くの場合、第二のような形になっていると思ふんです。そういう場合に、メンバーの自主性というものを、ある程度は前提にしなければ、集団はうまく動いていかないと思ふんですけれども、個人のイニシアチブというものを、どのようにしてくみ上げるかということが、リーダーにとっては一番大きな問題だ、メンバーにとっては現状を第三の型のようにしていくということが、自分のためでもあるし、ということになるように思ふんです。

ライオンで堅く教の中に閉じ込められている、あるいは反発しようという気持ちを開放して、吸収していくにはどうしたらいいだろうというものが、一つのリーダーシップだろうと思ふんです。

自己の質は違うか

高橋 YWCAでは、そういうリーダーシップに関するものを系統的にやっていたらいいと思ふんです。

私ども、きのうもこの中で会議したのですが、日本の女の人の場合と限定して、家族集団の中の生活というのには、まあ愛情というものが支えになり、いろいろの習慣も「正型」ができていて、その中でどう生きていくかということが私の意識からわかっていて、ところが新しい機能的な集団、これは多くの婦人にとって、そこにはいること自体が非常に新しい経験で、その中でどういかに処し

を、というふうな訓練を積んでいけば、和というものは一体何たるかと考えさせられることがあります。黙っているというところによって、ちっともいいことが起こっていないわけですね。だから、和ということについては、もっと新しい考え方を立てなければいけないのじゃないか。このことを少し伺いたいんです。

伊藤 集団のほんとうのよさとか強さとかいうものは、その集団のメンバーが、全部その集団の仕事に力を出すということでしょう。一人も沈黙していないということじゃないでしょうか。

福武 そうですね。そういうったエネルギーを吸収するのには、非常に極端に言うところ、一つは軍隊の組織というふうなものも考えることができる。個人の自発的な上での命令は……とかいう形で、力を結集して出さなければならぬ。出しどころを、はむちで引っぱらなくともいいやり方。そういう組織が支えられている間は仕方ないから、個人はともかくついていく。しかし、その組織がなくなつた場合には、まったくばらばらになつてしまふ。

伊藤 それは日本の戦後に見られた社会の無秩序というふうなものですね。構みないに構みはめられていいたのがはずれ。たう、どうにも收拾がつかなくなつた。こういうことが、全体的な権力政治の一つの大きな弱点であるし、間違いでしょ。今、その組織のメンバーみんなが、何らかの形で、その仕事に参加して出

たしたエネルギーの総和が、その集団の強さになるんだという考え方があつて、大阪の教員集会で奈良武夫さんが記者講演をやつて、その一番初めに、自分はずつとゴリザに登つたときに、ほんとうに共同活動のとうとをきいた、——山登りをすると、一人でもはずれればいけないわけですが、これが集団という意味だということだ。日本教員組合を前にしていわれたんです。それはしかし反対があつてはいけない、議論をしてはいけない、という意味ではもちろんなんで、その集団が全部で自分たちのことを考へるといふ形の和のとらえを、山登りにたとえて言われたんです。そういうった考え方が、もう少し具体的にいふのは、サークル活動とか共同研究とかいうものに対して、もっとアラスカの面が出てくるように思ふんです。

高橋 今の登山のお話で、集団的に行動するということが強調されましたが、ね、そのことは大切なことだと思ふんです。今度ほどに、非常にそれに依存する、というか、個人が非常に無気力になつてしまふという現象が出てくる。これはどうでございませうか。

福武 そういつた集団参加の仕方のほうが日本人には慣れているわけじゃないんです。おそろく奈良さんのいわれたのは、集団的な共同活動というのを強調

個人が重んじられても、その基礎には非常に個人の尊重というものがあつたと思ふんです。それは山を登るのだから、やっぱりそこに一人ひとりの生活が配慮されるようですね。磯野氏の家族制度の一番終りのほうにそれがちよつと華びてあつて、高橋 社会のほかの現象にも、そういうことが言われますね。今度ほどに一人ではものを考へられない、一人では行動ができないような層ができてくるのじゃないか。これは共同活動が正しくないからということと同じなんですか。

福武 それが出てきているというよりも、新しい集団の中に過去の生活態度がそのまま持ち込まれているというところじゃないでしょうか。最も大衆社会的な状況の中で画一化されていく。そして組織そのものが非常に膨大になつていって、その組織は個人では動かせなくなつて、必然的に広い意味での官僚制組織になつてくる。個人が無気力なものだから、それにおかかるといふ面がある。それだけに、そういう大組織、大集団の中で、個人がどういふふうな生き方をいかにしようかと、それから非常に大きな問題になるのじゃないでしょうか。組合でも、個人団体の連合の全国的な組織でも、

個々の組織を支えているそれぞれの単位が民主的な集団形態をとつていけば、出て行く人はそれをふまえないければ発言はできないでしょうし、おれは一段上の人間になつたんだという意識もなくなるでしょう。その個人は単なる機能を果たしているにすぎないのであって、委員長になつたから、あるいは会長になつたから、自分は特別の人間になつたんだという気持は出てこないと思ふんです。しかし現状では、婦人会長になると、やはり会員よりは偉くなったというところになる。そういうところが一番大きい問題がある。だから会長になつて責任を負うといつても、その責任の負い方がやっぱり古い負い方にすぎない。

高橋 そうすると、かりに現象面で見ると、いろいろ問題が出ているとして、それは古いものが新しい枠に持ち込まれたものというふうな考えで、新しい現象が何か起きつつあるというふうには考へないほうがよろしいでしょうか。

福武 それはやっぱり大衆社会論なんというところになると、一つの現代という社会の問題点になるわけですね。日本の場合にはただそれだけではないといふところに、一番大きな問題があるのじゃないでしょうか。たとえば政治的な関心という場合でも、現代という社会における政治的無関心というところになれば、非常に機微膨大になつて、個人の力で、どうにもならぬところから無力感

が生まれてくる。しかしそれは、別に保守でもなければ秩序でもない。もちろん進歩でもないという性格を持つていふうけど、日本の場合には、それにプラスXというものがついていっているわけだから、二重の問題を提供するということになるのじゃないでしょうか。それを回避するために、やっぱり古い集団における生き方を徹底的にこわしていくという努力をしなければならぬということになるのじゃないでしょうか。

石橋 集団の中で一人ひとりの人が、ほんとうに自分に生きるならば、今のようにな無気力ということは起こらない筈なわけですね。そこで私ひとつ伺いたいんですけど、たとえば先例として、ある会で昨年、警職法反対ということを決定して出したわけですね。そうしたら相当有力なメンバーが、そういうことを会がきめて、あたかも会全体の意志としてやるというところは、その中の一人ひとりの自由を侵害するものだという声を非常に響きくあげた。いかに会が団体として行動することがむずかしいかというところを感じたわけですね。その場合の自由ということと、団体としての意思というか、そういうものとの関係ですね。

福武 それはその集団所属というものが決定的なものであると考へるから、会として警職法反対という決議をした。

それはぜんぜんおれは耐えられないといふことになれば、それを阻止する努力をすればいい。阻止することができないならば、その会から抜けなければならないことであつて、やはり古い組織ないし集団に対する考え方が前提にあるから、個人の自由を束縛するものだというふうな考え方が出てくるのではないのでしょうか。

伊藤 その点は、私はやっぱりその会が組織されている目標なり性格というものが関係してくると思ふんです。たとえば日本の民主化のために、民主婦人同盟というものができている場合に、日本の民主化というものと警職法との関係をどうとらへて議論して、納得させた上で決断すればよいと思ふんです。警職法と勤務評定が一番問題になるのはPTAで非常に進んだお母さんたちの多いところでは、勤務評定は日本の民主教育を破壊するものだという意見にみんな賛成して、その目、集まった人だけで決定してしまふ。そうすると、ほかの連中が怒るわけなんです。そこで問題になるのは、PTAという存在は一体何をやる団体かということとです。すると、決してちやうどをを快解する機関ではない、子供の仕合せのために、教師と父母とが学校環境や地域社会をよくするといふ組織ですね。お父さん、お母さんの中には警察官も教育委員もいるでしょう。結局、PTAの性格からいって、そういう決議はしてはならないと、私は思ふんです。

高橋 婦人会なんかも多分にそうではない。そのような特殊な目的を掲げたところは別ですけどね。

伊藤 高知県の仁淀村の話ですが、あの父兄は、みんな勤務反対の署名をされているんですが、結局先生がいろいろ仕方がないといふことで、PTAの目的なんか考へてもいらないわけですね。

福武 だから署名そのものが自由の中でできているんです。だから、署名したことに責任がないといふことですね。

高橋 私ども婦人連合をいまして、きき、前近代的な個人と、大衆社会化といふ面とどちらに力を入れたらよいか——もちろん両面をこらえなければならぬといふことが、どちらを強く出す方がよいか、迷つていまして……

福武 一律に言えませぬけれども、重点は後者にあるかも知れませんね。農村の青年たちがサークルなんかで勉強して、自我がある程度出てくる。そうすると今度は個人では限界があることに気がついて、集団的に処理していかなければならぬといふことになつてくる。しかし、新しい形の集団を移行していくといふようなところまでいってはいない。だから、新しい集団における個人の役割というものは、現在ではむしろ強調していかないと、のじゃないかと思ふんです。

高橋 いろいろ御高説を伺わせていただきまして、ほんとうはありがとうございます。



第十一回

婦人週間実施のしおり

労働省では、四月十日からの一週間を「婦人週間」と呼称し、昭和二十四年以來、毎年婦人の地位の實質的な向上のため運動を主催してまいりましたが、本年は左により第十一回目を挙げて行おうことになりました。

一、第十一回婦人週間の構想

(1) 目標および議題事項について

○目標 婦人の自主性の確立——とくに

○議題事項 集団との関係において

集団における個人の自由と責任 労働省では、例年婦人週間にあつて特定の問題を選んで、週間の運動目標として行います。第一回から第七回までは、意識の面の向上、実力の涵養等、個人自身の成長ということに重点をおいて目標を定めましたが、第八回から第十回までは、一歩ずつ婦人の力を役立たせることを目標としました。これは、婦人の地位の實質的な向上と社会の進歩発展とは相関関係にあるので、婦人が社会の発展に貢献し、婦人の地位を高めるための社会的な条件を整備をすすめて、その地

もつ力を生活において役立たせるよううながしたものです。

このように、過去十回の婦人週間を通して、婦人の地位向上のために必要と考えられる問題を段階的にとりあげてきました。第十一回婦人週間の開催にあつては、ふたたび、婦人の地位向上のための基礎的な問題をとりあげることとし「婦人の自主性の確立」を目標としました。

婦人の自主性については、第五回婦人週間にもとりあげましたが、その際は、主として個人の基本的権利という面から自主性についての認識を深め、婦人の自主的な運動を促進することにとつとめたのでした。今回はとくに、自主性を集団との関係においてとらえ、集団における個人の自由と責任を強調します。すなわち家族・近隣・職場・団体等の集団の中で、婦人がその主体性を生かすと同時に、これらの集団の発展のために積極的に貢献し、日本社会の進歩に役立つことを期待するものです。

(2) スローガンについて

「個人の自由と責任が集団をさだめて」

「自主性を集団との関係においてとら

え、集団における個人の自由と責任を強調する今週間のスローガンには、個人が自由と責任をもつて行動することが、その属する集団をさだめる結果になるといふ点をもちだしました。

(3) 行事の運営について

婦人週間は、例年各関係官庁からもより民間の婦人団体、青年団体、労働組合、報道機関などが協力されて、全国的に多彩な行事が展開されますが、すでに十回にわたる実施によって婦人週間はひろく一般に普及し、各機関が年例行事としてそれぞれの立場で実施される段階になっていきます。それで労働省として、本週間の目標や運動方針を明らかにして各機関に協力を依頼いたしました。協力機関で実施される行事の運営については、各機関の機能に応じた自主的な動きにまづことを期待しております。

二、第十一回婦人週間の主旨

(目標の内容)

啓発活動における労働省の観点については、少しくわしくのべておきます。

(1) 自主性について 自主性とは、端的にいえば、自らの決定によって自分の生活を律することであり、すなわち、他人の言動に無批判に、あるいは不本意ながら追従したり、命令によって盲従的に行動したりするのではなく、自らよく考えて、正しく判断し自分の自由な意志で選び、それによって

すんを行動し、自分の言動に責任をとる、そういう生活態度をさすものです。このような自主性は、近代的な個人の確立のための必要な条件であるばかりでなく、民主主義社会育成のための基礎的な要素となるものであります。

自主性の基礎となるものは基本的な権利の自覚、尊重であります。すなわち、人はすべて平等に尊く、自由であり、また幸福を求める権利があるということをひたひた考へる時にはじめて、自分の意志によって自分の生活を規定し、よりよい生活のために努力しようとする意志が行動が生まれるものであります。従つて人権意識の早く発達した欧米の國々では、家庭生活、社会生活における自立の精神や習慣が早く確立し、これが民主主義政治、近代市民社会を建設する原動力となつたのです。

第五回婦人週間においては、このような自主性について、主として基本的な権利の面に重点をおいて、正しい認識を深めるよううながしましたが、今回は、個人と集団との関係がより個人の幸福と集団の発展との相関関係の面から自主性をとらえ、自分自身の成長と集団の伸長のため、自主性の確立が必要であるという点について婦人が認識を深めるよううながすものです。

(2) 集団における個人の自由と責任について

にさまざまな種類がありますが、まず組織されているかどうかによって、組織集団と非組織集団(群衆、公衆など)とに分けられます。組織集団はさらに基礎的集団(自然発生的集団)と機能的集団(目的集団)とに分類されます。

基礎的集団は、その中で私たちの生活の中心や欲求のほとんどすべてを一応自足的に満足させることができ、私たちの社会生活の基本的な保障と安全が確保されることので、社会生活の最も現実的な基礎、基盤をなす集団であります。この基礎的集団はまた、そこで人と人とを結合させている紐帯によって、血縁集団と地縁集団とに分けられますが、前者の代表的なものには家族で、この家族集団がすべての社会集団の基礎をなすものであり、後者の代表的なものとして農村・都市等の地域集団があげられます。そして機能的集団は基礎的集団から、特定の目的に応じて特定の機能を果たすために分化し派生したもので、それぞれ明確な目的を掲げて成員の自我を充足させ、その目的を達成するためにそれぞれ特定の機能を遂行する集団であります。機能的集団は、普通、文化団体・経済団体・政治団体の三種に分けられますが、さらに細分すれば次のような集団があげられます。

- 学校
○各種のグループ、サークル
○青年団体 ○婦人団体
○会社、工場などの職場

○労働組合 ○政党 など。

これらの集団の中に、個人がどのように参加し、生かされているか、というところが問題になります。段階的の三次の三つに分けられましょう。

- 1. 集団の中に個人が埋没している——全く自覚のない段階 (この段階では、失敗しても全く責任を感じない)
2. 多少自我のめざめはあるが、阻害されて十分にびない段階 (この場合も、限りがあつても責任は自分になく、そうさせているものがあると考へる)
3. 集団に属することによって、正しく自我が充足されていく段階 (ここでは、個人は自分の意志で行動し、すんで責任を果たす)

最後の形が最もよましく、集団と個人との関係をこのようなものにするためには個人が自主性を確立し、その自由と責任を十分に生かしていくことが必要です。さらに集団の中に個人の自由と責任を生かし、集団を発展させていくために私たちはいるべきではないでしょうか。今回はとくに次の三点についての認識を深めたいと考へます。

- 1. 集団を尊重する自由
団体・結社などの機能集団は、個人の任意な参加によってつくられるもので、私たちは、集団への参加、不参加を決定する自由をもつていきます。

また、自分の希望を達成するために同じ目的をもつ人々と共に新しい集団をつくる自由をもつていきます。

- 2. 集団の規範を守り役割を果たす責任 集団には、それぞれ成員の行動についての規範があります。集団の成員は、この規範をまもること(契約精神、道徳精神)
○言動に責任をとり職分を果たすこと
○エチケットをまもり協調しあふこと
などによって、集団の期待にこたえ、その運営を円滑に進めて、集団の機能や目的を充実させていく責任をもつていきます。このためには、各自の主体性に基く進歩意識が重要な要素となります。

3. 集団をよりよいものにまえていく自由と責任

集団の規範は必ずしも固定したものではなく、矛盾や障りがあるを考へるとき、それを是正改善していくことができます。その自由と責任は、成員のひとりひとりにあるのです。

○批判力(知識に基づく冷静な判断)
○進歩性や勇氣(社会の進歩に対する信念と意欲)
○建設的な意見や協調性

- 2. 日本社会における集団と個人との関係

日本社会の多方面に前近代的な要素が強く残されていることは、従来の婦人週間にあつてもしばしば指摘をまよるのですが、集団との関係における個人の自主性についても、私たちは同様の問題点を見出します。すなわち、家族や村落などには未だに封建的な名残りがみられ、ここでは個人の自主性が育ちにくいという状態を見受けられます。そのような集団で格付けられた個人は、他の機能的な集団に入つた場合も、自由と責任を十分に生かし得ないといえましょう。そのために個人の幸福や、集団の発展が阻害されがちですが、しかも一方では、近年とくに顕著になつた大衆化現象に伴うあらたな問題が提起されています。

大衆化現象については、そのフラスコの面とマイナスの面が論じられていますが、フラスコの面としては、「個人の尊厳化」があげられていますが、すなわち、まだどちらかといへば身分社会に近い面を多分に残している日本社会では、組合、サークル等の結成による集団化、あるいはマス・コミ、ニケーションの普及は、身分的な垣根を取除き、個人を尊厳化する役わりをもつており、近代化の進歩に役立っている、といわれていきます。一方マイナスの面としては、集団構造の変化によつて出現したマンモスの巨大集団は、個人を集団に隷属させ、無気力化するといふ点が指摘されています。さらに、マス・コミ、ニケーションの普及に

ついでととりあげられ、マス・メディアに流されて、個人が自主性を失い、享樂的になるという問題も提起されています。このように、日本社会における集団と個人との関係には、前近代的な要素が残っている反面、さらに大衆化現象があらわれ、個人という複数を呈し、個人がその帰趨に迷うというあらたな問題についての解決がもたらわれています。

三、本週間の運動方針
中央および地方の優先機関を通じて本週間の運動を展開しますが、その運動の重点は次の点です。
1. 性格形成の場であり、基礎的集団である家族の中で、自由と責任が確立されるよう努める。
2. 婦人の間で各種の機能集団とくに身近な仲間による小集団が組織されるよう努め、それらの集団活動によって、自由と責任を学ぶよう啓発活動を行う。
3. 大衆化現象に起因する諸問題についての関心を喚起する。
4. 既成集団の中で、個人の自由と責任がどの程度生かされているか、ということについての検討が婦人の間で自主

的に行われるよう努めます。
右の方針に基づいて、ボスター、リーフレットをはじめとする各種資料の作成配布、意識調査、会議、連絡調整活動等を通して運動をすすめます。

第十一回婦人週間実施要綱

婦人の地位の向上をはかることを目的として、毎年わが国婦人の最初の参政権行使の期日である四月十日に始まる一週間の「婦人週間」とし、全国的に特別運動を展開しますが、今年は左によって第十一回を実施します。

一、趣旨
個人が自主的な意識と態度を確立することは、個人の幸福ばかりでなく、家庭職場、社会全般の進歩発展のために大切なことです。さらに近年は各種の集団の著しい発達に伴い、個人における個人のあり方が民主主義の進展に重要な意味をもつものと考えられます。
ここに今回は集団との関係における個人の自主性をとりあげ、集団における個人の自由と責任を強調します。すなわち家族、近隣、職場、団体の中において、婦人がその主体性を生かすと同時に、これらの集団の発展のために積極的に貢献し、もって日本社会の進歩に役立つことを期待するものです。

二、目標
一、個人が自主性を確立する
二、個人が責任を確立する
三、強調事項
一、個人が自主性を確立する
二、個人が責任を確立する

集団における個人の自由と責任
(スローガン) 個人の自由と責任が集団を育てる
四、期間 昭和三十四年四月十日(金) - 四月十六日(木)

第七回全国婦人会議開催要綱

一、趣旨
婦人週間の目標を広く一般に浸透させるとともに、婦人の自覚と自主的な活動意欲を高めるために、第十一回婦人週間の行事として、広く全国各層より公衆した会議員による全国婦人会議を開催する。
二、名称 全国婦人会議
「集団における個人 - その自由と責任 -」

一、趣旨
婦人週間の目標を広く一般に浸透させるとともに、婦人の自覚と自主的な活動意欲を高めるために、第十一回婦人週間の行事として、広く全国各層より公衆した会議員による全国婦人会議を開催する。
二、名称 全国婦人会議
「集団における個人 - その自由と責任 -」

一、趣旨
婦人週間の目標を広く一般に浸透させるとともに、婦人の自覚と自主的な活動意欲を高めるために、第十一回婦人週間の行事として、広く全国各層より公衆した会議員による全国婦人会議を開催する。
二、名称 全国婦人会議
「集団における個人 - その自由と責任 -」

三、主催 労働省・日本放送協会
四、期日 昭和三十四年四月十二日(日) - 十五日(水)
五、開催場所 東京(産婦人科・NHKホール)
六、会議の構成 会議は部会及び総会によって構成され、全国より公募した六十名の婦人及び助言者数名によって討議がなされる。
七、会議の内容 集団との関係における個人のあり方について検討を行い、家族、近隣、職場、団体等の集団において個人の自主性を生かすにはどうしたらよいかを討議する。なお、東京都内および近県数カ所を移動会議も行う。
八、会議の開催 全国より希望者を公募し、中央選挙委員会を設けて書類審査により各都道府県より一名以上を選定する。
九、その他 1. 会議開催費並に会議員の旅費及び滞在費は主催者の負担とする。
2. 会議は一般公開とする。
一〇、選挙委員 ○甲は助言者
お茶の水女子大学委員長 藤山 政道
群馬県 坂西 志保
群馬県 渡辺智多雄
群馬県 伊藤 昇
東京工科大学教授 大谷 省三
日本放送協会婦人部長 川上 行蔵
日本放送協会婦人部長 江上 フジ
労働省婦人少年局長 谷野 せつ
労働省大臣官房婦人課長 大野雄二郎

一、趣旨
婦人週間の目標を広く一般に浸透させるとともに、婦人の自覚と自主的な活動意欲を高めるために、第十一回婦人週間の行事として、広く全国各層より公衆した会議員による全国婦人会議を開催する。
二、名称 全国婦人会議
「集団における個人 - その自由と責任 -」

全国婦人会出席者の近況

婦人週間の行事として開催される全国婦人会議も、今年は第七回目となり、過去六回の全国婦人会議に出席された会議員の方々はその後どのような生活をしていられたでしょうか。これは、婦人少年局長が今年の婦人週間についての意見を第一回から第六回までの全国婦人会議出席者全員(三六〇名)に伺った際、御返事を下さった二〇〇名近い方々の中から毎回二、三名の方々の御近況を御紹介するものです。

○第一回(長野) 吉川 俊子
婦人団体の中で、グループの育成に努力しています。家庭生活合理化の実践をそのまま社会の慣習にもひろめるようにと、会員同士で勉強しています。でもなかなかむずかしいことばかりです。
○第二回(岡山) 高橋 寿子
最初の全国婦人会議の思い出を、日頃胸に日夜励んでいきます。中学教諭として勤務、家にあっては二女の母として、家庭と職業をうまく両立させるよう努力しています。婦人会議を通じてから地区の人々と協力し保育所の設置に成功しました。農村向上のため微力を尽しています。
○第三回(三重) 河村 房子
組合支部の婦人部長をまかせられ、なまたま勤務の問題にそう過し忙しい日々を送っています。母親と女教師の提携をはかり、月一回の会合をもち「子供の幸

福」について話してあげています。
○第四回(青森) 松田 登美
第一部会の十五人で結成した十五人の会報も、編集係の方の結婚と共に解消の形となりました。もう一度集まる機会をほしいと思っています。現在は婦人少年室協働員として働いています。
○第五回(鹿児島) 神前 富子
部落で季節託児所を始めました。苦しいこともありましたが母親達に大へん喜んでもらえました。それ以後毎年婦人会の手で春秋二回、託児所が公民館に開設されるようになりました。長女が中学に入るので三月には東京に引越します。
○第六回(山形) 三浦 梅江
最近婦人達の多くが、農協がお話立てをし唯それに従って動く農協婦人部だけに興味をもち、婦人会は面白くないからと集まらなくなりました。リーダーとして反省させられ身のまわりをどうにかしているいろいろな問題をテーマにしたスライドを作り、それをみながら話し合ったところ、とてもよくなりました。今後もスライドを派山つくるつもりです。
○第七回(群馬) 高井 光子
群馬県は動評問題で大きすぎます。一般の人達がいかにもものわりのよい顔をして簡単な他人の言葉に右往左往する姿を情ないと思います。私達はもっと政治の実態を捕まえてはならない。農村も町も婦人会は「おどり」と「旅行」とお上の伝達にあくくれているのをどうしたらよいのだろうと考えるこの頃です。
○第八回(栃木) 岩島 千代
近所の子供会や、時にはPTAにも出

席しますが、社交化した婦人会には顔を出していません。主としてこの頃は自分自身の勉強にはげんでいます。子供二人と夫と四人暮らし、今のところ子供会を導くのがたのしみです。
○第九回(富山) 大間知八恵子
元気に地域で活躍しています。最近婦人少年室を中心に、第一回から現在までの全国婦人会議出席者の連絡会を開催し私達が中央でみたりきいたり、話したりしたことが、年毎にどのように婦人達の上にあらわれているかを学習しあう機会をもつよう努力しています。
○第十回(千葉) 八木 千恵子
婦人会議に出席してから勇気が出て、早速自分の町にお嫁さんだけのグループを作り名前を若葉会とつけ、身近な問題を出しあって勉強しています。又行事のひとつとして子供会を作り毎月百名ばかりの集まりに紙芝居、幻灯、お話などやっています。勉強したり会の運営をしていますと、全国婦人会議のような場です。
○第十一回(長野) 関 みさ子
毎月一回近所のおばさん達と必ず話し合いの場をもちます。去年三月には私達のグループが農家生活改善実績発表会に長野県代表となったので上京しました。他の部落へも仲間つくりの話し合いゆきますが、農村の仲間つくりは難しく苦勞ばかり多く大変です。励まして下さい。

私の職業

衛生管理者

労働基準法では、常時五〇人以上の労働者を使用する製造業・建設業・運輸業・鉱業等の事業場と一〇〇人以上の労働者を使用する農林業・漁業・水産養殖業・サービスマン業・金融保険業・卸売小売業・郵便電信電話等の事業場では、一定数の衛生管理者をおかなくてはならないと定めている。衛生管理者には医師と、医師でないものがあり、昭和三十三年十二月末現在、両者あわせて全国で五六、〇二六人であるが、東京(四〇%)以外では、女子はまだ少なく、今後に期待される分野である。

—編集部—

婦人よもつと積極的に

本間 健子

(電々公社東銀座電話局勤務)

昭和三十三年春の衛生管理者試験を受けて、「受かる筈がない」と、すっかり自信を無くしていただけに、合格通知を手にした時は、本当に嬉しく思いました。しかし、受験の動機が、当時の主任衛生管理者をしておられた庶務課長から、「どうだ、受けて見ないか」と云われ、「とても自信がありませんから、同じ受けるなら少し勉強をして、この次の機会に……」落ちても笑わないで下さいね」というような、心細いものでしたので、パスはしたものの、抱負など何もなく、今度は「私なんかにも勤まるのかしら」と、新しい心配が起きて来ました。

そのような私の気持をよそに、勤務先ではほとんど担務変更が行われ、六月初旬には、新米の私の選任届が、基準局へ提出され、厚生関係事務全般と共に、私の仕事として、両腕に溢れるように掛って来ました。さて、そうしてスタートを切って見ると、非常に仕甲斐のある仕事で、すっかり魅了されてしまいました。そこで、秋に仙台で開催された第三回全国労働衛生大会に参加したいと思ひ、資料を纏めて提出しましたら、幸い、予選にパスして、参加出来ることになりました。あちらへ行って見ますと、時間の関係等で、発表は電々公社の人ばかり一五〇名程を前にして、男子三名、女子一名のみとなり人前で何かを発表するというようなことは、中学や高校の学生生活を通して、文化祭等で経験したくらいのもので、全く何年ぶりかのことでした。その会場を埋める一五〇名の中、女子は私を入れて僅か四名、あとは皆年配も、経験も

申し分のない方々ばかりなので、相当強心臓の私も、大分神経を使ってしまうました。発表が終ってから、大会会場の仙台市公会堂へ行きましたが、そこで、再びあまりにも婦人の参加者が少ないのに、がっかりさせられました。

衛生管理の仕事は、例えば、職場の食堂などから中毒事故が発生して、その際の処置が非常に適切であった、というような場合は、その存在価値が大変はつきりしてくるのですが、それより以前に気を配って、当然起ったであろう、中毒事故を、未然に防いだ、となると、それで当り前であり、別に気にも留められないというような、大変味な存在です。しかし、あれこれとやり始めれば限度がなく、特に環境衛生などは、主婦の仕事に活用したら、相当役に立つと思われ節も多いので、婦人の職業としては適切なもの一つであると思ひます。それにもかかわらず、現在、女子の衛生管理者受験率は僅か二〇%に過ぎないと云われますから、これは「女だから……」「不合格だと恥かしいから……」というような気持を捨て、もつと積極的に受験をして、資格を取り、ある時は母親のような気持で、優しく細かく気を配り、またある時は「職業人として確固たる信念を持って、仕事に励んで行けば、最近各所で見られる、職業婦人を締め出そうとする気運も、「衛生管理者は婦人に限る」ということで、自然に緩和されて行く結果になるのではないかと思われます。しかし現在、まだまだ問題となるのは、とか

く衛生管理者というものが、労働基準法で定められていて、うちの職場では、どうしても何名置かなくてはならない。それではあの人によらせよう」というようなことで、衛生管理者となる婦人が多いことです。そのような場合は、どうしても職場での地位が低く、そのために、労働者の健康を考慮しての、環境の改善、就業時間や疲労対策の問題などで、経営者に要求したり、交渉したりする時に、どうしても力が弱くなり、労働者との板ばさみになる、というようなことが起りがちです。

一昨年の六月頃から、婦人の衛生管理者はかき集まって、いろいろな問題を研究してゆくグループができましたので、何かと横の連絡もとれ、婦人衛生管理者の向上にも役立つことと思ひます。一口に婦人衛生管理者の職場に於ける地位の向上といっても、なかなか実現できるものではないですね。降り積る雪も初めはほとんどぬれた地面に、吸い込まれていってしまうように、あとから降って来る雪のために、お互に努力して行くことが、いつの日か必ず、朝日に照り映える、一面の銀世界のように輝かしい時代を、築くものと信じております。

このようなことを書いてはいるものの、私はまだほんの駆け出しで、今の処、盲蛇に怖じずで、ただがむしゃらにやっているだけなのです。これからはあらゆる面で、認識を広くして資格に恥じない実力を作って行きたいと思ひておりますので、どうぞ一層の御指導御鞭撻をお

願ひ致します。

大学病院の

衛生管理者として

清水 勳子

(慶応義塾大学医学部勤務)

婦人の新しい職業の一つとして労働基準法の施行に伴って生まれた衛生管理者としての仕事は、大企業・中小企業を問わず、働く人々の職場に於ける作業環境をはじめ福祉厚生施設的面を調査・研究し、その結果をそれぞれの実情に即した対策によって改善し、作業能率をたかめ、各自の保健に留意することがその主旨でありますし、また、それら調査の記録や、健康管理の資料統計は、今後の衛生管理上だけでなく、事務能率向上の参考ともなります。

私は医学の教育、研究、診療機関である大学病院の衛生管理者として就任しましてから、もう十年になります。当時の東京女子医専の姉妹校として創設されて間もなかった厚生女子専門学校に入學し、ここでは、公衆衛生・統計学・病理細菌学などを学び、精神病院の見学や、結核病棟での臨床実習も留得しました。学生時代には、看護婦になるのではなく、医者でもない何か中途半端なことを学んでいるように考えていました。が、実社会に入って見まして、三年の

間に自ら留得しましたことが、知らず知らずのうち役に立つと共に、この道の広く深いものであることがわかりました。就職しましてから、第一に学びましたことは、職員の実態を知ることでした。

どのような部署に何名の方が、どんな仕事をしているか、職員の年齢構成や経年数、などを調べました。医師である衛生管理者の指導の下で、環境調査に銀行や工場に行き、現場の塵埃や騒音、照度の測定も致しました。

学内では、清掃婦、看護婦の生活時間調査を行い、労働のエネルギー代謝率を調べると共に、摂取熱量を算出し、それによって、栄養状態や作業強度の実態を把握するなど、実際に学びつつ、仕事をしてきました。私の職場では各職員の定期健康診断を一年に一回、結核の早期発見を主目的として実施していましたが、昭和二十七年からは、一年に二回、春には胸部疾患を主に、秋には全般の検査を実施するようになり、翌二十八年より、満四十歳以上を対象に血圧測定も併せて実施していましたが、高血圧症の治療対象者は昭和二十八年十月には受診者の六・五%でしたが、昨三十三年には九・二%を示し、年と共に次第に増えてゆく傾向にあります。この事から考えさせられますことは、結核の療養者は、早期発見・早期治療によって減ってきていますが、最近、統計上からも、成人病といわれる高血圧症・心臓病の患者が増えてきていますので今後の健康管理は、疾病にかかる前の個

人の身体的面の訴えを知ること、発病を未然に防ぎ、いくらかでも早期発見による早期治療に努めるべきではないかと思ひます。

また、軽勤務という形で一般の職場に復帰する時、ともすれば敬遠されることもあり、これらの復職者を温かい理解を以て受け入れられるいわゆるアフター・ケアの施設を、健康管理の一つとして検討して見ることも、患者の再発を防ぐのに必要なことだと思います。婦人の貧血について調べて見たいと、昨年の定期健康診断に、全血比重の測定を全員に実施しましたら、やはり更年期に近い婦人に貧血の多いことがわかりました。これは今後の参考に、また研究の点をのこしました。

これからは健康管理の上で最も大切なことは、各人の健康に対する関心を一層深めると共に、自分自身の現在の健康状態を知る意味で、定期的な健康診断には、職員全員が受診出来るよう、積極的な協力を得るよう、努めなければなりません。一人の患者が出ることは、同じ職場に在る他の人々にその負担がかかることとなります。職場に常にかかるといふ、和やかな働きやすい場所とするために、明るい社会生活、家庭生活の源泉となる「健康保持」に衛生管理者として努力、研究してゆきたいと考えています。

「衛生管理」という仕事は一朝一夕で成るものではなく、調査・研究・対策を執行した一つ一つの中から小さな結果が判明してくるものなの

です。一つの問題点を見出し、それを手がかりとして進めてゆくこと、工場・デパート・銀行・学校・病院などそれぞれ業態こそ違つていても、環境の改善や、健康的、身体的に見た個人の適性配置などにあたっては、確実な資料をもととしてされることが、望ましいもの。ですから、地味な縁の下のような仕事を、手を出せば出す程、問題点の山積している仕事を、経営者の理解ある判断と指導により、重要な意義をもつ衛生管理の仕事として、婦人のもつ特性を活かしつつ、今後も勉強しながら進めてゆきたいと考えております。

日進月歩に 追いつく研究が必要

長江 寿恵子

(横川電機製作所勤務)

「女学校を出ただけでは万一の場合に一人で生きて行くのに困るのではないか、教養ともなり、また、職業ともなるようなものを何か一つ身につけておいてやりたい」という父母の願ひから専門学校の受験を奨められ、東京女子医専の姉妹校である「東京女子厚生専門学校」(校長吉岡弥生先生)に入学したのが、現在までの私の運命を決定した第一の理由と申してよいでしょう。しかし、この学校の卒業と同時に得た

中等学校・高等学校教員免許、衛生管理者免許、保健婦免許等は勿論結婚してから万一場合に役立てるものと自他共に考えていたのですが、敗戦と同時に婦人の地位向上、職場進出、経済的独立等が叫ばれ、当時の私にはとても家庭にじっとしてられない意欲が湧いて来たのです。それにせいかく学んだ知識を結集するまでもよいから役立てたいという希望もあって、職につく決意をしました。

入社当時、「お嬢さん仕事」しか出来ないのではないかと危懼していた会社の方達の心配をよそに、それまで確立されていなかった衛生管理の種々の規程や健康管理上の基準をつくらせ、会社附属の診療所の医師に協力して結核管理を軌道にのせるなど、当時としてはまた新しい仕事の基礎をほとんど築いてまいりました。女子の入りたがらない工場の現場にも進んで飛び込み、誰とでも気楽に話の出来る雰囲気をつくって、健康相談に応じたり、健康上の生活指導を積極的に行ったり、また、作業環境を把握して、会議に諮るなど、大変広汎な仕事をやっておりますが、特に健康相談とか、患者の療養指導、あるいは女子従業員の衛生指導などについては、女子である私の独壇場と云つてもよいかも知れません。

現在、私は一、八〇〇名近くの従業員を対象に、たった二人の専任の衛生管理者として他の衛生管理者(医師二名、兼任の衛生管理者六名)

の中心になつて情報を蒐め、調査をし、計画を樹て、教育啓蒙をし、意見具申をするなど、衛生に関する限り一手に引うけてやっておりますが、幸い「主任衛生管理者」である上司が衛生管理に対する理解が高いため、本当に思い通りに仕事ができます。減多に休暇もとれないほど多忙ではありませんが、決して苦しいとは思っておりません。私が八年足らずの浅い経験でありながら、このように会社の中で縦横に活躍できますのも、会社並びに上司に理解のあること、及び学生時代、基礎医学や保健・衛生・栄養・統計学等を学んで来たこと(これは一般の方か衛生管理者試験にパスして資格を得たのよりは多少有利だつたように思ひます)によるものと感謝しております。しかし治療医学も予防医学も、労働衛生も日進月歩の時代ですから、一度覚えたと知識に安住してははいりません。結核が減つたら高血圧や癌がありますし、ベンゾール中毒や鉛中毒の対策が何とかなれば、アイトープやベリリウム中毒が現われるといった具合に、次々に新しい知識や対策を学んだり、研究しなければなりません。

ところで「女子衛生管理者」の地位は、と申しますと、これは必ずしもよいとは申せません。その原因の一つに、先程挙げた研究心・向上心の不足があると思ひます。しかし能力や意欲はあつても、組織や機構上、「女子衛生管理者」は「男子衛生管理者」の命令に従つて云われた事だけを行う、という場合もあるでしょう

し、また、「衛生管理者」とは名ばかりで、お茶汲み兼事務員といった中小企業の場合もあつて、なかなかむずかしいように思われます。

そこで何とか「女子衛生管理者」の地位を高めたいという念願から、最も大切な「実力向上」をめざして、三十一年六月つくられたのが「東京衛生管理協会女子部会」です。設立当初から発起人であった私は、柄にもなく部会長を勤めておりますが、現在会員は約一〇〇名、隔月研究会を開いて非常に熱心に勉強をしております。発足後三年を迎え、すっかり顔なじみになつた昨今では、いろいろと教え合つたり、体験を発表したりしてなかなか得難い知識交流の場になつております。昨年から最も「女子衛生管理者」に苦手であり、しかも、工場の衛生管理には最も重要である「有害業務対策」への技術修得のため、「有害ガス」、「粉塵」、「騒音」の三つのグループ研究会も設け、小グループで大卒や研究所へ行って勉強する組織もつくりました。

また、今年は一歩を進めて「共同研究」——各事業所ごと同一目的のため同一方法で調査したデータを持ち寄り、これを集計して衛生管理上の参考資料とする——も実施中という発展ぶりです。そして今まで一人ではなかなか手がつけられなかつたり、考えつかなくなつたことがこの会を通じて積極的にやれるようになったと会員から感謝され、何となく苦勞が酬いられたような気がいたしております。

私のこんな小さな体験では、大きな事も申せませんが、女子でも「やろう」という意欲さえあれば、男子をしのぐよい仕事もできると思ひます。企業の中では非生産的な仕事として、余り顧みられない嫌いのあつた仕事の一つではありましたが、最近これが「生産向上、能率増進」のための重要な仕事として認められてきております。こういう面に今後どしどし女性が進出し、殊に男子の気のつかない面へ細かい神経を使い、働く人の健康を守つたり、職場の改善にのり出していただきたいと願つております。

○職場の男女平等は守られているか

—NHK放送討論会—(三月八日午後二時十五分)

NHKでは三月二日東京有楽町の日本生命保険協会講堂で、表記のテーマで放送討論会を開催した。講師は日経連常任理事宮崎輝、全通労働組合婦人対策部長坂本咲子、労働省婦人少年局長谷野せつこの三氏で、司会はNHK小林利光氏。会場には動機地りの婦人たちがあつた。盛況であった。最初、三人の講師がそれぞれの立場から意見を述べ、討論に入つたが、宮崎氏の「結局女子は自分の能力を高めることが大事だ」との発言に対し「女性が「最近、女子大の卒業生が就職から締め出されている」と矛盾しないか」と一矢報い、また五十五、六歳の紳士の「女性には女らしい本来の姿があり、男女同一に考えることは無理ではないか」の発言には満場爆笑。坂本氏は「男女同権とは男になれということではない。女も人間として同じ扱いを受けるのは当然」と答えた。また「ILOの条約の男女同一賃金に日本は批准しないのか」の質問に「谷野氏は「それ程むずかしい問題はないから近い将来批准されるだろう」と答えた。その他、結婚退職、母性保護と均等待遇の問題、お茶汲み問題まで職場の問題が多面的に取りあげられ、活発に討論された。

パンコック帽を織る婦人たち

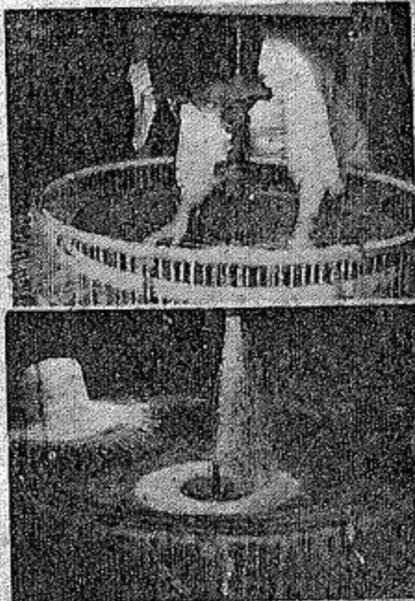
③ 岡山県

秀島羽緋子



わたしは備前の岡山育ち、米のなる木をまだ知らぬ

その昔の備前三十二万石の城下町岡山を後に山陽線の下り列車が倉敷を出て暫くの後、高梁川の鉄橋を渡ると、そこから約一時間足らずの間、列車は備前中路の麦田の青さの中を西へ走り続け、その田圃の向うに段々島と秀山が見える。明石から西に三時間、初めて青い海が旅の車窓を慰めると思ふ間もなく備後路(広島県東部)に入る。



ク帽があるが、由来岡山は気候風土に恵まれ、米・果樹・甜菜等の農産物、織物、農機具等も全国屈指であるが、この内海沿いの南西部は、耕地が比較的少なく、漁業も小規模で、勢い家庭の主婦達の余剰労働力を対象とした、いわゆる内職な製菓業の特産品として、麦糊(上部)がうまいと破れるので、天のうすいものは輸出先で最も嫌われるそうである。

天の織地ができたなら、大きな木のまじゅうのようなものが敷せられ、織地が増すにつれて、木型を中心の螺絲でギョウギウウ押し込み、下のパケツの中へ沈下させる。パケツとの間にはハンカチと呼ばれる木綿の布切れがあつて、柔かい帽子の地肌をいためないようになつていく。織る時の注意としては、刷や練の寸法を正確につくることが、できあがって色むらのあるものは、多く離りむらによるもので一等合格品にはならない。

品として、年間輸出高四億円前後、北米を主とし、中南米を販路としている。現在四十万ダースの中、国内向けは一万五千ダースと大きい。その生産は数人から十人前後の主婦達(六割まで既婚者)が工場に集まって、賃状の織機をチャリンチャリンと音をたてながら織る手工業で、出来上がったものは、正しくは「パンコック帽体」という半製品で、それが商社を通じて輸出された後、型入れされ、ピン皮、リボン等をつけて仕上げられる。この帽体をプレッシャーにかけるとき、天(上部)がうまいと破れるので、天のうすいものは輸出先で最も嫌われるそうである。

この仕事は全部、家事の余暇に働く婦人の手で行われている。笠岡管内六〇〇、倉敷管内では、寄島九〇〇、鴨方二二〇、里庄一六〇、金光九〇、玉島五九〇、合計一、九六〇、総計二、五六〇名で、その大半を主婦で占めている。管理にあたる男子は、工場主(五〇一事業所)でもあるが、日本パンコック帽体工業組合に属し、この産業の推進力となつて、価格調整等を自主的に行なつて、価格の維持、品質向上等に努力の動きが見られる。

婦人達は二〇〜三五歳の人が多いが、中には昭和三年頃入つて、現在六五歳の婦人もいて、これが最高齢である。男子は、従業員としては、唯一人だけである。この人々の福祉は事業場としてまともな考えられていないが、夏はキャンデーが提供されたり、慰勞の映画の入場券が提供されたり、一年に一度くらいは京都大阪方面に旅行が計画されている。平均手取り日給一五〇円というが、時間中々きめられない点があり、家庭から好きな時に出かけて作業する等、至極のんびりして、いわゆる拘束的な面は少なく、



を頼んで五千円か六千円とる者が多い。傷害は特になが視力を弱くすることがあげられる。

任意な労働状態である。大抵一月か月に仕事に馴れ、型にもよるが一月か月に二〇〇枚乃至二二〇枚。静岡、岐阜、愛媛、岡山、津山等で生産される原料を加工する工場がこの週辺に六つ数えられる。ここでは一日十キロの材料が工場につくられる。原紙は切断機に掛けられ、八センチないし一・三センチ幅に正しく切られ、熱機にかけられる。つづいてセル引(アルコー・エーテル・ヒマシ油等でドロドロに溶けたコロソンの塗料工程)で、ゴムの乳頭の小さい穴を潜って十米も宙に引張られ、再び塗料缶に戻ってセル引される。数回めまぐるしく廻るとき糸が切れ、足許にひきずられ、よこれてしまう。この時その部分を切り捨ててまた結びつけるが、その節がいつまでも原料の疵となり具合が悪い。

「働く人の思うようにさせている」現実、そこに農漁村の家内労働的特殊性が内包する幾つかの課題があり、また、労働法の新しい指針のなかに、婦人の地位の向上を軌道にのせ、労働秩序を確立することを夢みるのは、どうであるか。手ばたの姿で旋律が明る因習から脱皮した職場に響くのはいつだろうか。ついでに、原料になる燃糸を製造する工場について、簡単にふれておこう。

岡山県の産業について語ると、どうしても全国産業の約七割を占める学童服を中心とする児島の縫製品を忘れることはできない。近年、服そのものの質が向上して耐久力が強くなったことや、小学生に家庭でそれぞれ好み合った服を着せられること、それに学童の人口減も手伝って、需要が減ってきているとはいふものの、ほぼ大阪以西各県から集まる中学卒業生五月ともなれば、中学校の大講堂は、千五百のおかっぱさんや若々しい少年の顔でうずめられ、新卒者の歓迎会が感激のうちに開かれる。しかし、これらの青少年を受け入れる事業場は、まだまだ古い考え方が支配しているようである。その一例として、次のようなことがあった。

去る成人式の日、児島市内在住の若人、七九〇名の成人としての門出を祝福して行われた祝典に、ある織物工場の女子労働者が無断で出席したという理由で、退職させられたのである。次に掲げられるのは、この少女が書き送ってきた手紙であるが、こんななきげない例は、これだけでおしまいたいものである。「会場には喜びにあふれた顔が満ちていた。行つてはいけないと云われながら出席したのは、おそろしく私くらいだった。席したのは、おそろしく私くらいだった。しょう、式場では市長さんや、いろいろの人から励まされ、みな感激して泣いていた。私も泣いたが、しかし私の涙は、これで会社へ帰れなくなるのではないかと、いう悲しさからだった。夜、寮へ帰ると、年下の人たちが、お金がないから、こんなものだけだと、姉さんの成人式をお祝してあげる、と云って、懐も二つを贈ってくれた。翌日、退社を命ぜられました。今までにこんな例があるでしようか。職場の職当者は今年四人来年は十人前後あります。私の例をみて、年下の人たちが式に出られず絶望したらどうでしょう。どうか、後の人に暗れの門出を祝つてあげるようにして下さい。」

目下、関係者の間で若い人々を温かく成長させることが懸念になり、会社側も今までのことを水に流し、彼女を復職させる意向を示しているが、岡山の産業界の名にかけて明るい解決を期待している。(岡山婦人少年会長)



第4表 年齢別にみた投票率 (選挙人名簿による)

	20~24歳	25~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~歳	計
投票率	46.0	49.5	59.4	59.8	61.4	46.1	54.6
棄権率	54.0	50.5	40.6	40.2	38.6	53.9	45.4

今年選挙の年といわれる。婦人有権者の政治的責任は大きい。従って昨年五月に行われた衆議院議員選挙についての世論調査の結果から、婦人有権者の選挙に対する態度を検討しておくことは無益ではないと考えられる。

この報告の基礎となった調査は、大阪市選挙管理委員会が筆者等に委託して行った。昭和三年五月二二日の衆議院議員選挙についての大阪市民の世論調査である。もともと大阪市に居住するすべての有権者を対象とした。調査(多段無作為抽出法により、一〇九の標本を抽出した上、五月末より六月初旬にかけて個別面接を実施、調査不能二四四、回収率八一・五%)であるが、ここではそのうちの婦人有権者についての結果のみを、特に同委員会の許可をえて検討する。なお婦人の標本数は六一八、調査不能九六、有効標本五二二であり、回収率は八四・五%で男子(七八・三%)よりもよい。調査不能九六の不能理由をみると、「転出」三九・六%、「住居不明」二六・〇%、「不在」二一・九%などが主なもので、特に若い世代の移動が激しいようである。

らであらう。修学年数別にみると、だいたいの学歴の低いものほど投票率は高く、一三年以上という専門教育を受けたもので八五・八%にもなっているが、「7~9年」という旧制高等小学校新制中学校卒業程度が五七・〇%で、だいたい「6年以下」というのは既にかんりの年齢の人であることからは、幾分高くなっているが、それでも六一・三%であるから、やはり教育程度は政治への関心と関係があることとみてよい。ところが、世帯主との続柄別をみると、「妻」が七一・二%で非常に高い投票率を示しているのに対して、「世帯主」は五三・四%、その他の「世帯員」は五一・九%しかない。同居人や使用人は数を少なくない(二二名)が、四五・〇%で、やはりこの種の生活をしている人々に問題があることを示している。世帯主は「応は家庭以外の生活の場をもつものが多いと考えられるが、女世帯主の場合には生活のきびしさの故に、選挙にまで関心をもてないのかもしれない。職業別にみると「事務職」「労働職」といっ

第5表 棄権の理由(女子のみ)

理由	%
選挙権がない	8.1
選挙当日外出して不在だった	15.1
選挙当日は病気があった	17.8
選挙当日は忙しかった	24.9
投票所が遠いから	1.1
投票所で待たされるのがいやだ	2.7
投票所の空気がいやだ	1.6
投票所がどこかよく分からない	1.6
子供がいるので行けない	3.2
留守番がなかった	1.1
適当な候補者がなかった	7.6
頼みになる政党がない	2.2
選挙などしても意味がない	8.1
政治や選挙などはよくわからない	9.2
投票日をよく知らなかった	0.5
その他	13.0

率が一番悪く、特に「事務職」では五九・九%しかないことは注意をする必要がある。以上第3表の結果をみると、老人層の投票率が低いことは当然であるとしても比較的若く、特に家庭でも責任の重い、勤めをもつ婦人が、最も投票率が低い、ということは最初にあげた一般的な理由と反対の結果を示しているともいえる。直接の結びつきのないことからくる結果であるが、いまの職業婦人の職業についての態度とも関係するものであって、彼女たちの政治意識の問題は、今後一そう検討する余地があるように思われる。

二 棄権の理由
そこで棄権をした理由を、名簿でも質問の回答でも「棄権」とした一八五名についてみると、第5表のようになっている。男女の別に関係なく棄権の理由として多いのは、「選挙当日忙しかった」、「選挙当日外出して不在だった」、「病気があった」などである。調査では、支持政党や投票した候補者名についての質問は、はぶかれ、たんに候補者の選択にあたっての「政党か人物か」という形式的な問題と、他人の意見をどの程度まで参考にしたかについて、投票者(ここでは投票者も三二名)の意見をきくことのみにとどめ

第6表 男女別にみた候補者選択の重点

	計	分らない		人物に重きをおく		政党に重きをおく	
		どちらともいえない	どちらか一方	どちらか一方	どちらか一方		
男子	100.0	1.0	1.0	28.9	50.3		
女子	100.0	5.7	5.7	31.5	37.9		

ている。まず候補者の選択にあたって、「政党」と「人物」のどちらに重点をおいたかについてみると、男女別では、男子は「政党」がみられ(第6表)男子に比べて婦人は全般に「政党に重きをおく」傾向が強く、やや「人物に重きをおく」ものが多い。また、「どちらともいえない」とか「分らない」とするものもかなり多くみられている。表ははぶが婦人だけについてみると、年齢別では、「20~24歳」修学年数別では「9~12年」、職業別では「通勤者」及び「学生」がより強く「政党中心」の傾向を示している。さらに、「政党に重きをおく」とした一九名に「もしその政党からは大した人物が出ていなくてもその政党を選んだか」を重ねてみると、確信の揺らぐものが男子よりもやや多いが、若い年齢層などは、「やはりその政党を選ぶとするものが八五・七%にも達し、かなり強い確信をもっている。政党中心に候補者を選択しているとおく」と答えた九九名にも、重ねて「あなた達の選んだ人物がもし別の政党か



婦人と選挙

中山本 中川喜代子 登

今年選挙の年といわれる。婦人有権者の政治的責任は大きい。従って昨年五月に行われた衆議院議員選挙についての世論調査の結果から、婦人有権者の選挙に対する態度を検討しておくことは無益ではないと考えられる。

この報告の基礎となった調査は、大阪市選挙管理委員会が筆者等に委託して行った。昭和三年五月二二日の衆議院議員選挙についての大阪市民の世論調査である。もともと大阪市に居住するすべての有権者を対象とした。調査(多段無作為抽出法により、一〇九の標本を抽出した上、五月末より六月初旬にかけて個別面接を実施、調査不能二四四、回収率八一・五%)であるが、ここではそのうちの婦人有権者についての結果のみを、特に同委員会の許可をえて検討する。なお婦人の標本数は六一八、調査不能九六、有効標本五二二であり、回収率は八四・五%で男子(七八・三%)よりもよい。調査不能九六の不能理由をみると、「転出」三九・六%、「住居不明」二六・〇%、「不在」二一・九%などが主なもので、特に若い世代の移動が激しいようである。

一 投票率の分析

一般に婦人の投票率は低いといわれ、その理由として、「一般的洞察を可能にする職業的訓練と経験」の不足があげられている。この調査の基礎となった選挙の大阪市の集計結果をみると、男子の投票率六二・〇%に対して女子は五六・〇%であった(大阪市の選挙人名簿による)。選挙人名簿による世論調査の原本の場合にも男子五九・一%、女子五四・六%であった(第一表)から、やはり婦人の投票率の低さを認めることができる。その問題は、どのような人々の投票率が低いかということである。

第1表 選挙人名簿による投票率

	棄権	投票	計
男子	40.9	59.1	100.0
女子	45.4	54.6	100.0
計	43.3	56.7	1.000

第2表 二種の資料による投票率(実数)

	棄権	投票	計	投票した計		投票しなかった計	
				名簿で投票	調査で投票	名簿で投票	調査で投票
男子	130	21	151	134	17	151	151
女子	185	18	203	190	13	203	203
男女合計	316	39	354	324	30	354	354

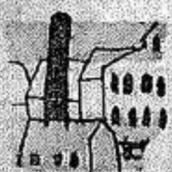
調査のできなかったものに棄権が多いため、投票率は全体としては六二・九%でやや高くなっているが、年齢別では「20~24歳」が一番低く、次に「50~59歳」の老人層が五八・〇%で悪い。調査不能をふくめた標本全体については年齢別のみが分かるが、参考までに第4表を示すと、「20~24歳」「60歳以上」がそれぞれ四六・〇%、四六・一%の投票率で、四九・五%の「25~29歳」をふく

第3表 各種の性別別にみた投票率

	合計	年齢別						修学年数別			
		20~24歳	25~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~歳	6~年	7~9年	10~12年	13~年
投票率	62.9	53.6	62.7	68.2	64.7	65.9	58.0	61.2	57.0	69.4	85.8
棄権率	37.1	46.4	37.3	31.8	35.3	34.7	42.0	38.8	43.0	30.6	14.2

人層の投票率が五割に満たないことが分かる。これに対して30歳から50歳までの人々はほとんど甲乙なく高くなっている。家庭生活の中核として、ある程度まで政治というものに関心をもっているか

	世帯主との続柄別						本人の職業別			
	世帯主	妻	世帯員	同居人	自営商業	管理由業	事務職	労働職	その他	無職
投票率	53.4	71.2	51.9	45.0	73.9	66.7	51.9	55.3	77.8	69.3
棄権率	46.6	28.8	48.1	55.0	26.1	33.3	48.1	44.7	22.2	30.7



女子学校卒業者の 職種別就職状況

石原義治

①女子の学校卒業後の状況について
昭和三十三年三月学校卒業者のうち女子については卒業後の状況をみると、中学校の場合には進学者が最も高く四九・七%を占め、ついで就職者の三七%、無業者の一〇・二%、就職進学者の一・七%、不詳の一・二%となっており、これを男子に比べれば、就職者の割合は大差ないが、進学者の割合は男子が高く、無業者の割合は女子が高くなっている。

高等学校の女子についてみると、就職者は五二・〇%で最も高く、ついで無業者の三〇・八%、進学者の一三・二%、不詳の三・九%の順であり、これを男子の就職者六一%、進学者一七・八%、無業者一六・四%に比べると、女子は男子に比し就職者・進学者の割合が低いのに對して無業者の割合が高くなっている。

短期大学の女子についてみると、就職者は四四%を占め最も高く、ついで無業者の四〇・六%、不詳の一〇・四%、進学者の四・九%の順であり、これを男子の就職者六六・五%、進学者一四・八%、無業者六・一%に比べると、女子は男子に比し就職者・進学者の割合が低いのに對して無業者の割合が低いのに對して無業者の割合が高くなっている。

以上いづれの学校別に見ても、女子は男子に比して無業者の割合が高いこと、男子に比して無業者の割合が高いこと、男女の職業生活のちがいを明らかに示しているといえる。

ところで学校卒業者のうち就職者数の推移を昭和三十一年三月以降についてみると、就職者数の増減は卒業生数の増減に左右されており、卒業生に対する就職者の割合はここ三か年間に於いて高校・短期大学・大学とも増加を示しているのに対し、中学はむしろ減少の傾向を示している。そして増加の理由をみると、高

第1表 学校卒業後の状況 (昭和33年3月卒業の女子)

区分	中学	高等学校	短期大学	大学
卒業生総数	933,958	344,599	20,637	16,551
進学者	461,721	45,227	1,015	761
就職進学者	348,876	178,918	9,016	9,777
インターン	15,668	680	53	12
無業者	95,994	106,161	8,404	3,946
不詳	122	46	4	2
死亡	11,577	13,567	2,145	1,786

文部省統計室 No. 87 「卒業後の状況調査」

第2表 学校卒業者のうち就職者数の推移 (女子)

学校別	31年3月	32年3月	33年3月
中学校	378,725	397,264	364,544
高等学校	141,287	162,659	179,598
短期大学	7,898	9,830	9,069
大学	8,812	9,259	9,789

②女子の学校卒業者の職種別就職状況について
中学校卒業者の女子について就職者の職業別割合をみると、最も高いのが製造業で四〇・五%であり、ついで農業者、林業者及び類似従事者の一八・二%、サービス職業従事者の二六・四%、売買及び類似従事者の二二・三%、その他の四・六%、事務従事者の四・〇%、その他の生産従事者の三・二%の順となっている。

中学校卒業者の女子について就職者の職業別割合をみると、最も高いのが製造業で四〇・五%であり、ついで農業者、林業者及び類似従事者の一八・二%、サービス職業従事者の二六・四%、売買及び類似従事者の二二・三%、その他の四・六%、事務従事者の四・〇%、その他の生産従事者の三・二%の順となっている。

そして製造業従事者の総数を一〇〇%としてその内訳をみると、紡織従事者が最も多く三九・六%を占め、ついで織物製品製造従事者の二五・五%、金属加工従事者、運輸装置従事者の一一・八%、木材及び木製品製造従事者の二・二%となっており、サービス職業従事者総数を一〇〇%としてその内訳をみると、家事サービス従事者の四六・一%、個人サービス従事者の三四・一%、上記以外のサービス職業従事者の二〇・二%となってい

ところで、以上の職業別を三十一年三月卒業者と比べると、農業者、林業者及び類似従事者のいぢるしい減少に對し製造業従事者、サービス職業従事者、売買及び類似従事者においていぢるしい増加を示しており、製造業従事者では紡織従事者が減少し、織物製品製造従事者、金属加工従事者、運輸装置従事者などが増加を示している。

高校卒業者の女子について就職者の職業別割合をみると、最も高いのが事務従事者の五三%で、売買及び類似従事者の二〇・七%、サービス職業従事者の六・八%、農業者、林業者及び類似従事者の六・二%、製造業従事者の五・五%、その他の三・三%、専門的技術的職業従事者の二・一%、その他の生産従事者一・一%の順を示している。これによれば高校卒業者は事務従事者、売買及び類似従事者を合わせた総数の七四%を占めており、最近では製造業従事者が増加の傾向を示しており、実数は事務従事者、売買従事者の増加数が目立っている。

短期大学卒業者の女子について就職者の職業別割合をみると、最も高いのが専門的技術的職業従事者であつて四七・四%を占め、ついで事務従事者の三九・四%、サービス職業従事者の三・九%、売買及び類似従事者の三・七%、その他の三・五%の順であつて短期大学卒業者の

場合が専門的技術的職業従事者と事務従事者を合わせた八七%を占めている。そして専門的技術的職業従事者総数を一〇〇%としてその内訳をみると教員が六二・四%、医療保健技術者が二八・八%、その他六・五%となっており、これら卒業生の学料をみると家政、教員養成が圧倒的に多く、医療の保健技術者のうちでは六七%が栄養士で占められている。

そして以上を三十一年三月卒業者と比べると、専門的技術的職業においては四三%の減少を示し、事務従事者においては三三%の増加を示している。

大学卒業者の女子について就職者の職業別割合をみると、最も高いのが専門的技術的職業従事者の七六・〇%を占め、ついで事務従事者の一八・七%、その他の二・四%、サービス職業従事者の一・一%であつて、大学の場合には専門的技術的職業従事者と事務従事者で総数の九五%を占めており、専門的技術的職業従事者の割合が高いのが目立っている。

ところで専門的技術的職業従事者総数を一〇〇%として、その内訳をみると、教員が七三・五%、医療保健技術者が一三・六%、その他が八・九%、技術者が三・四%となっており、医療保健技術者と技術者の大部分が医療薬科卒業のものである。

以上、大学卒業者のうち就職者の学料をみると、教員養成のものが就職者のうち四一・八%、文学が二七%、医療薬が一二・二%で、以上の学科で総数の八一

第3表 学校卒業者の職業別就職状況 (昭和33年3月卒業の女子)

職業別	中学	高等学校	短期大学	大学
総数	364,544	179,598	9,069	9,789
農業者、林業者及び類似従事者	66,302	11,134	43	5
漁業者及び類似従事者	2,401	159	3	—
採掘採石従事者及び類似従事者	228	89	4	—
運輸機関運転従事者	351	422	1	1
製造業従事者	147,168	9,919	48	8
その他の生産従事者	11,781	1,818	52	27
専門的技術的職業従事者	—	3,768	4,300	7,484
管理的職業従事者	—	634	26	25
事務従事者	14,962	96,999	3,579	1,822
売買及び類似従事者	44,939	38,491	340	83
サービス職業従事者	59,631	10,390	357	102
その他	16,791	5,875	316	282

(出所：前掲に同じ)

うに女子は男子に比して就職決定者の割合が低くなっている。

そして、四年制大学の学科別就職希望者に対する就職決定率をみると、卒業生数の少ない電気通信、その他の工学、法律、政治、理学などはいぢるしい高く、これに反して卒業者の多い文・史・哲学、家政などは率が低くなっている。これは短期大学の場合も同様となっている。

このように女子就職決定率の低いことは学

次に関連のあるものが多いことを示している。そして、これを三十一年三月卒業者と比べると専門的技術的職業は大きな増加がみられる。

③学科別にみた女子の就職決定状況について
次に昭和三十三年三月卒業生見込者について文部省が三十三年十一月現在調査した就職希望者に対する就職決定者の割合をみると大学では男子は五七・四%、女子は二七・五%、短期大学では男子は一八・七%、女子は一五・七%のよ

短期大学の場合には男子は四七・四%まで中小企業を希望しているが、女子は五三・五%まで学校・官公庁を希望している。これはいうまでもなく女子の場合には学料そのものから制約されているためであるが、これと同時に、学校・官公庁・大企業には希望するが中小企業へは

婦人界の動き

(二月十六日、二月十五日)

十六日 売春対策審議会(会長菅原通済氏)の今年初の総会が開かれ、昨年十二月の総会で同審議会内に設置することをきめた二つの小委員会の委員及び各委員会の検討事項が決定された。(第一小委員会)座長松原一彦氏、法制度(二)いわゆるひもつき売春婦対策(三)単純売春対策等、第二小委員会)座長久保田万太郎氏、運用面(一)職業指導など売春婦の保護更正対策(二)悪質、精薄売春婦対策等。

十八日 女中さんの団体布交会の総会が開かれ(於東京)東京及び近郊の会員百三十人が出席して、休日・労働時間等の問題について話し合った。

二十一日 社会教育に関する婦人研究懇談会・青年団体・労組・学識経験者等により結成された社会教育の自主性を守る懇談会の主催により「社会教育の自主性を守る全国代表者会議」が開かれた(於東京)。参加者は五十団体百五十人で、改正の問題点、地方実情、国会審議状況等について話し合った後、大会宣言を決定、幅広い反対運動を展開することを決めたが、国会議代表は二月六日、大会採択の要請書を政府・国会に提出、陳情した。

一方、十八日に開かれた愛知他西日

本十県の地域婦人団体による開法改正に対する会合(於松山)では、改正賛成の決議が行われた。

二十四日 婦人団体連合会活動連絡委員会(日本婦人有権者同盟等七婦人団体参加)の代表が、東、有田両東京都知事候補を訪ね、公明選挙の上から、最近の事前運動を取止めるよう要望した。また同代表は、二十九日最高検検事総長にも、地方選挙に伴う事前運動の取締強化を要望書を出した。

二十四日 主婦連・総評等の加盟する全国消費者団体連絡会では、物価値上げ反対の連絡会を開き、生活に大影響を与える物価値上げに強く反対する国民運動を展開することを決議し、具体策を協議した。また主婦連では、二十八日政府に対し、私鉄運賃の値上げを取止めるよう陳情した。

二十五日 第五回福祉施設に働く人びとをねぎらう会が開かれ(主催日本民生文化協会、於東京)、養護施設・乳児院・保育園・母子寮などに働く人達約二千人が参加した。

二十八・二十九日 第四回全国農協婦人大会が開かれ(主催全国農協婦人組織協議会、於東京)、全国より集まった千三百人の会員が部落活動を中心とした農協婦人部の組織活動・生活改善・学習活動の三分科会に分かれて討議し、自主製作映画「荷車の歌」を鑑賞した。

(二月)

一日 母と女教師の協力を求め共進の婦人問題を話し合う目的の第五回関東地区「母親と女教師の会」が東京で開かれ(関東各都県教組主催)、就職・進学・PTA・勤労等につき討議した。

一日 婦人問題研究会(会長加藤ツツエ氏)総会が開かれ、運動方針の審議、役員選挙(会長同上、副会長河上末子、山口ツツエ、阿部静枝の三氏、いずれも再選)が行われた。

三日 汎太平洋東南アジア婦人協会日本委員会の総会が、さきと同協会シンガポール支部主催の国際研究会(一月十五日・二十一日、於シンガポール、参加十四か国)に日本代表として出席した赤木静氏(自由学園教授、全国友の会推せん)の報告会をも兼ねて開催された。

六日 売春対策国民協議会(会長久布白オチミ氏)の主催により、売春防止法全面実施後の保護更正や取締りの実態を話し合う「売春対策の盲点をつく会」が開かれ、法務・厚生・警察・労働各官庁担当官・婦人相談員・婦人議員、婦人団体等関係者約百人が、単純売春、精薄売春婦、保護施設・予算・世論等の諸問題について討議し合った。

また法で規定されながら、設置予定地元の反対で行き悩んでいた婦人補導院(保護更生施設)が、この福八王子市に決まり、着工のはこびとなった。

七日 基地反対を叫ぶ女町長山西キヨ氏

(茨城県小川町)のりコトル投票が行なわれ、開票の結果リコトル賛成が過半数をこえ、町長解職が決定した。

十日 国会で審議中の「風俗営業取締法の一部を改正する法律案」が国会で可決、公布された。これにより四月一日から、問題となっていた深夜喫茶店(十ルクス以下)の取締りや、同法の罰則が強化されることとなったが、これに対し、都の温泉としての喫茶店の深夜営業全面禁止を主張する地域婦人団体等では、照度中心の今次改正を不満として対策をたてることとなった。

(二九ページよりつづく)

＜協助員のひろば＞



協助員のひろば

すくすく育つ杉の子会

……動く少女少女の集い……

雲 田 謙 吉

(島根県人少年室協助員)

美しく澄んだ空に真白い雲が静かに浮かんでいる師走の十三日、松江市城山公園の古杉並木に、嶽をかついだ白髪の熊野松江市長と、杉の苗木を持った紅顔の数名の青年少女たちが晴れやかな顔つきで立っていた。

これは、この間、動く少女少女たちの集いである「杉の子会」の第四回集いが松江中央公民館で開催されたとき会員の一人志見彰子さん(十七歳)が、遠く離れた邑智郡邑智町吾郷の自分の家からわざわざ掘って数十キロの道を持って来た、杉の苗木を植える日だったのである。

志見彰子さんは「杉の子会」がこの杉苗がすくすく育つようにと念願して、第四回集いを記念して寄贈したのである。「杉の子会」では志見彰子さんの熱意をそのまま生かし、意志にそうよう植樹の場所を検討したが、「杉の子会」の育成に熱心に努力している婦人少年室長の鈴木栄子さんは、早速松江市役所を訪れ、熊野市長、漢東商工観光課長等と話し合った結果、城山公園に植樹することに決めたのである。城山公園は杉の育ちがまことによい地味なので、この植樹の杉

苗は動く少女少女たちを祝福するかのようすくすくと育つて行くことだろう。「杉の子会」というのは昭和三十三年の三月、動く少女少女たちが互に励ましあひあひとした家族的な集まりで、この日ばかりは平素の労働の苦しさも孤独さも離れた楽しい集いであった。

杉の子会は純真な動く青少年男女の集いで、その目標は「動く青少年者がお互に助けあひ、豊かな人間性と健康を養い、どんな苦しみにも負けないで、希望にみちた明るい生活をおくることを目的とした、みんなの親睦の機関」というので、これを自主的に実践している。

杉の子会は零細な会費を経済的な唯一のものとして、自主的な組織と活動とを誇り、ニュースを交換し、会員相互の文通激励等を行っているが、動く少女少女た

もの集いだけに、その前途は注目され、また期待されている。

「杉の子会」の会則の中から、活動その他二、三をあげて見よう。

活 動

第五条 前条の目的を達成するために次の事を行う。

(1) 年六回の定期集会(レクリエーション)を開く、但し会員の半数以上の希望があれば臨時の集会を開く事ができる。

(2) 会員ノートを回覧し、意見の交換の場とする。会員ノートについては次の事を守る。

- (1) 会員ノートを受け取ったら最高三日間保持できる。
- (2) 初めて書く時は自己紹介をする。
- (3) 白紙では回覧しない。
- (4) 会員以外には原則として見せない。但し家族にはその限りではない。

(5) 好きな事を書いてよいが、ふざけ半分や見苦しい事を書いてはいけない。

(6) お互に大切に取り扱い、汚損、毀損しないようにする。

(7) 会員ノートの所在をはっきりするために、五の日にノートを持って

いる者はその旨を会長まで連絡する。

(8) 機関紙の発行。

(9) ニュースの発行。

資格

第十一条 満十五歳以上であること。

(2) 勤労青少年であること。

会 員

第十二条 本会の会員を左の三種に区分する。

- (1) 正会員 島根県下に住む者。
 - (2) 特別会員 正会員であった者が他府県に移住した者。
 - (3) 準会員 他府県に住む者。
- 正会員、特別会員、準会員は会の全活動、行事に参加できるが、準会員には会員ノートを回覧されない。

地 区

第十三条 本杉の子会を左の八地区に分け、各地区に地区連絡係をおく。

第十四条 各地区は地区連絡係を中心に、本会則に基づく活動、行事を行うことができる。

財 政

第十五条 本会の財政は正会員の会費及び寄附金によって賄われる。

第十六条 正会員は月三十円の会費をその月の十日までに地区連絡係に送り、地区連絡係は十五日までに本会の事務所に送る。但し特別会員、準会員は通信費を負担する。

現在の会員は、自動車修理工場・パン工場・商店・料理店・印刷工場などに働いている人たちが看護婦さんなどで、その傍ら高校に通っている人もある。また

女子の就業者数と完全失業者数 (1958年10月)

産 業 別	女子		男子		計	中	子	用	業	率	前	同	月	比
	万人	千人	万人	千人										
総 数	1,885	2,602	42.0	42.0	42.0	+	6	+	6	+	6	+	6	+
自 営 業 者	269	830	24.5	24.5	24.5	-	12	-	12	-	12	-	12	-
家 族 従 業 者	1,005	398	71.6	71.6	71.6	-	21	-	21	-	21	-	21	-
雇 用 者	611	1,372	30.8	30.8	30.8	+	42	+	42	+	42	+	42	+
農 林 業	21	24	46.6	46.6	46.6	3.4	-	6	-	6	-	6	-	6
漁 業	1	14	6.7	6.7	6.7	0.2	±	0	±	0	±	0	±	0
水 産 業	5	51	8.9	8.9	8.9	0.8	±	0	±	0	±	0	±	0
畜 産 業	23	124	15.6	15.6	15.6	3.8	+	3	+	3	+	3	+	3
製 造 業	223	457	32.8	32.8	32.8	36.5	+	11	+	11	+	11	+	11
卸 売 業	137	232	37.1	37.1	37.1	22.4	+	16	+	16	+	16	+	16
小 売 業	26	194	11.9	11.9	11.9	4.3	±	0	±	0	±	0	±	0
金 融 業	161	167	49.1	49.1	49.1	26.3	+	17	+	17	+	17	+	17
其 他 業	15	110	12.0	12.0	12.0	2.5	+	2	+	2	+	2	+	2
完 全 失 業 者	19	31	38.0	38.0	38.0		-	6	-	6	-	6	-	6

注) 1) *印の数字は特に誤差率が大いから注意して使用のこと。統計表の数字はすべて調査結果の推計乗数によるもの。2) 統計表の数字はすべて調査結果の推計乗数によるもの。内訳の合計に必ずしも一致しない。一総理府統計局労働力調査

一人一月平均現金給与総額 (1958年10月)

産 業 別	現金給与総額		男子に 対する 割合
	女子	男子	
総 数	9,337	21,539	43.3
賦 業	9,641	22,931	42.0
建 設 業	8,160	17,041	47.9
製 造 業	8,027	20,716	38.7
卸 売 業	10,374	21,743	47.7
金 保 険 業	15,459	31,057	49.8
不 動 産 業	10,075	23,194	43.4
運 輸 通 信 業	12,737	22,461	56.7
電 気 道 水	15,470	27,405	56.4

一労働省労働統計調査部 毎月労働統計調査

婦人少年局 ニュース

○第八回婦人労働問題研究会の開催
婦人労働課では、専門職としての婦人の地位をたかめることを目的として、保母及び学識経験者の二部に分けて、研究会を開催し、保母の職業の現状と問題点、その解決策について討議を行った。

○高知県に内職公共職業補導所開設
家庭外で働くことのできない人々のために、内職に関するあらゆる相談に応じ総合的な援助を行う機関として、全国十五都道府県に設置されている内職公共職業補導所が、この高知県にも設置された。その名称と所在地は次のとおり。

○谷野婦人少年局長
谷野婦人少年局長は、ニューヨーク国連事務局において、三月九日より二週間にわたり開かれる、第十三回婦人の地位委員会に出席のため、三月六日午後七時羽田発ノースウエスト機で出発された。

○英文資料 Status of Women in Work in Japan, 1957.
「訂正」前号二十五頁「内職公共職業補導所」の所在地(表)中、東京の「江戸区」とあるのは「江東区」の誤りにつき訂正します。

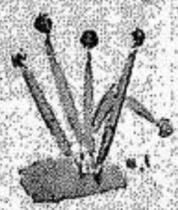
○年少労働者福祉懇談会開催
年少労働課では、二月二十七日、年少労働者の福祉活動の参考とする目的で、懇談会を開催した。出席者は、経営者団体、全国的・地方的および商店街協同組合代表(東京渋谷・浦田・赤羽等)等十六名で、年少労働課長、課員が出席し、前店街における福祉活動の現状、今後の計画等の発表、懇談が行われた。

○高知県に内職公共職業補導所開設
家庭外で働くことのできない人々のために、内職に関するあらゆる相談に応じ総合的な援助を行う機関として、全国十五都道府県に設置されている内職公共職業補導所が、この高知県にも設置された。その名称と所在地は次のとおり。

○谷野婦人少年局長
谷野婦人少年局長は、ニューヨーク国連事務局において、三月九日より二週間にわたり開かれる、第十三回婦人の地位委員会に出席のため、三月六日午後七時羽田発ノースウエスト機で出発された。

○英文資料 Status of Women in Work in Japan, 1957.
「訂正」前号二十五頁「内職公共職業補導所」の所在地(表)中、東京の「江戸区」とあるのは「江東区」の誤りにつき訂正します。

〈協働員のひろば〉



長欠就労児K子さんを訪ねて

長島 ふじの (茨木婦人少年室協働員)

長欠就労児対策で私がお手伝いさせていたのは水戸市第〇中学校三年生 Y・K子さんです。保護者の母親の職業は門付けで、本人は映画館の切符売り。K子さんは水戸市のはずれに近いさびれた町の裏通りに住む祖父(63)のもとに住んでいます。祖父は洋傘直して生計を立てています。耳の遠い老人です。家族は三十九歳になる伯母とその娘十七歳と十歳二人とK子の五人です。K子の母親はA老人の次女でK子とK子の兄の二人を連れて、旅芸人をして現在の夫と内縁関係を結び、子供四人を生み、町に住んでいます。

K子は小学校の頃から、母親の下を離れて、祖父の家に住み、農家の子守や食堂の給仕を転々として働きつけ、学校も欠席がちで、中学二年は一日も出席しないうえに、現在、この家の収入が食べていければK子も学校に出られない状態です。

私たちが協働員は婦人少年室長や室の職員と共々これら多くの働く年少者たちの歩みに、親代りとして共に励まし慰めを感じているという人もあって、その業つ、苦業をともし生計を立てたいと願う、その目的としてあけて行きたいように、豊かな人間性と健康を養って、やがては立派な社会人に育ち、社会のお役に立つよう祈っているのだから。

長欠就労児K子さんを訪ねて

「おばさん、やっぱりどこかで子守りでもして、学校に通わせてもらいたい。」とK子は悲しそうに言いました。やせ衰えた祖父に負担をかけたくないK子の気持ちを察して、何としてもK子の生活だけはと知人に頼みましたが、引き受けて下さったお宅は学校から遠くて、とても通うことはできません。十月二十八日K子と伯母と私は中学に行き、担任の先生にお願いし、掃りに伯母を置いて福祉事務所に生活保護をたのみに行つたのです。

十一月九日からK子は友達と一緒に学校に通っています。祖父は身体障害者として補聴器を貸与され、伯母は補導員として、K子は朝晩納豆売りをしながら、年の暮も近付いて、K子の登校によって、今まで入っていた四千円が入らなくなつて、この寒空にどうしているだろうか、それにあつたK子が毎日の学校生活で劣等感を抱き苦しんでいるのは、いやいやと察せられますが、幸い親身になって協力して下さる方々や関係機関とよく連絡しながら、K子さんが中学校を卒業して、明るく職業人として再出発する日まで、努力をつづけたいと思っております。

婦人少年協会の発行所
定価 五十円
通巻第六十六号
発行人 久米 愛子
印刷人 石井 完一
東京千代田区神田一ツ橋一丁目
電話九段(三) 九五九七
電話九段(三) 九五九八
電話九段(三) 九五九九

産前産後の婦人・発育期の青少年に
最も不足しているカルシウムを...

カルミックスで!

カルミックスは極めて吸収の
良いコロイドのカルシウムに
ビタミンB₁Dを複合させた甘
くて飲み易い錠剤です。

カルシウムは精神を安定させる働
きがありますので、少年鑑別院、
養護学院ではカルシウムの投与に
より、非常に効果を上げています。

500錠 200円

薬局・デパートでお求め下さい。



ミネラル入総合ビタミン剤で
もとうてい摂り切れないカル
シウムを是非カルミックスで
解決して下さい。

厚生省の調査によるとカルシウム
は一般の人でも60%も不足して
おり、産前・産後の婦人、発育期
の青少年に至つてはまさに大変な不
足です。

誌名記入御申越次第見本文献

東京都中央区日本橋室町1-2

栄養カルシウム興業株式会社

旬刊
情報

日韓問題

かねて日本民族が悲願とする
隣邦親善外交は交易を先駆とし
て東南アジア地域にそれぞれ拉
大されて来ましたが、日韓兩國
間にも当然その道が開かれなく
てはなりません。

それには全鮮の実情、特に韓
国の実情をも広く深く把握し、
世界的な視野からこれが総合的
な対策を構築し、貿易の促進お
よび文化の交流等によって親善
関係を増大すると共に、両国家
の発展に寄与貢献したいと念願
し本研究機関が設立されたもの
であります。

現下在日朝鮮人の北鮮帰還問
題をめぐって日韓兩國間に紛争
が惹起されて居りますが是が背
景をなす正確な知識の把握こそ
本問題を解決に導く喫緊の要事
であります。旬刊情報日韓問
題はその意味に於て唯一必読
の専門報道機関として資料を提
供するであります。切に大
方の御購読を乞う所以でありま
す。

中保与作監修

毎月三回七の日発行

一部 二〇〇円

年額六、六〇〇円(送料共)

御申込は下記朝鮮問題研究会へ

東京都中央区銀座西3-1
碓々館4階

朝鮮問題研究会

電話(56)1584・1585
分室(70)4397

昭和二十八年五月二十日第三種郵便物認可
昭和三十四年三月五日発行(毎月一回五日発行)

婦人と青少年者

(第七巻 第五号)

定価五〇円(送料四円)